

**IBM WebSphere Information Integrator Content
Edition**



リリース・ノート

バージョン 8.3

**IBM WebSphere Information Integrator Content
Edition**



リリース・ノート

バージョン 8.3

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、特記事項に記載されている情報をお読みください。

本書には、IBM の専有情報が含まれています。その情報は、使用許諾条件に基づき提供され、著作権により保護されています。本書に記載される情報には、いかなる製品の保証も含まれていません。また、本書で提供されるいかなる記述も、製品保証として解釈すべきではありません。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： IBM WebSphere Information Integrator Content Edition
Release Notes
Version 8.3

発 行： 日本アイ・ピー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2005.11

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2005. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2005

目次

リリース・ノートについて	v	IBM WebSphere Portal Document Manager コネクター	13
Web での WebSphere Information Integrator Content Edition のサポート	v	OpenText Livelink コネクター	14
既知の問題、制限事項、および解決策	1	リレーショナル・データベース管理システム・コネクター	15
インストール	1	Stellent コネクター	16
インストール・ウィザードの表示されたディスク・スペース要件は不正確です	1	WebSphere Information Integrator Content Edition ラッパー	16
Microsoft NTFS コネクターが完全にアンインストールされない	1	LIKE 演算子を含む照会	16
アプリケーションのインストールおよびアンインストールが AIX で失敗する	1	Lotus Notes コネクターの照会	16
WebSphere Application Server 6.x にデプロイされたコンテンツ統合サーバーにアクセスしようとする		多くの行を戻すコンテンツ検索ユーザー定義関数	16
と、リモート・クライアントが JNDI エラーを検出する		VBR.GETCONTENTLOOKUP 関数がエラーを戻す	17
場合がある	2	IS NULL 述部と NULL 値に代わる空ストリング	
トルコ語でアプリケーションのインストールおよび		値	17
アンインストールを実行できない	2	ニックネーム作成とセッション・プール	17
UNIX で Uninstaller.bin スクリプトが正しく動作しない	2	サブスクリプション・イベント・サービス	17
IBM Lotus Notes コネクターをインストールする場合にエラーが戻される	3	管理ツールからの JMX サーバーの JNDI 検索	17
WebSphere Application Server で EJB コンテナを再始動すると、そのコンテナ内の EJB のクライアントがエラーを戻すことがある	3	サブスクリプション・グループのインポートされたイベント・フィルターが不確定な順序で適用される	18
コマンド行ツール	4	WebSphere Application Server 6.x では、カスタム・アプリケーションで	
コマンド行からの Windows での一部のコンテンツ統合サーバー・アプリケーションの開始がエラーになる	4	SubscriptionGroup.evaluate API メソッドを使用するように構成する必要がある	18
管理ツール	4	統合 API	18
リポジトリ定義を変更すると、インポートされたデータ・マップが動作しない	4	リモート・クライアントでアプリケーションを実行すると、テキスト・ファイルが作成される	18
WebSphere Application Server 6.x で、サブスクリプション・グループのテスト・コマンドが動作しない	5	セッション・プールから取得したユーザー・オブジェクトでのメソッドの起動	19
コネクター	6	Web クライアント	19
Documentum コネクター	6	複数値プロパティを更新できない	19
FileNet CS コネクター	6	複数のコンテンツ・バージョンが作成される	19
FileNet CS および IS コネクター	7	Web クライアント構成ファイルでユニコード文字がサポートされない	19
FileNet イメージ・サービス・リソース・アダプター・コネクター	8	フォーム生成ツールは、サンプル・エントリーも基本ファイル名しか組み込まない	19
FileNet P8 Content Manager コネクター	8	Web クライアントを使用して表示されるアプリケーション文書内のイメージをリフレッシュする必要がある場合がある	20
Hummingbird DM コネクター	11	TIME 型のプロパティ値が预期された時間より 1 時間違って表示される場合がある	20
IBM DB2 Content Manager コネクター	11	使用可能なリポジトリのサブセットを表示するようなワークスペースの構成が機能しない	20
IBM DB2 Content Manager OnDemand コネクター	12	Web コンポーネント・ポートレット	20
IBM Lotus Domino Document Manager コネクター	12	ノード管理機能 Web コンポーネントから開始されたアクションにより、ポートレット・ウィンドウが正しく表示されない	20
IBM Lotus Notes および Lotus Notes 2.0 コネクター	12	クライアント・ブラウザでオープンされたポートレット・ページ	21

クライアント・ブラウザでオープンされたポートレット・ページに重複したコンポーネントが表示される	21
コンテンツをチェックアウトする場合に、「ノード管理機能 Web コンポーネント詳細」ペインが正しく表示されない	21
「ノード管理機能 Web コンポーネント詳細」ペインでコンテンツを正しくチェックインできない	21
ビュー・サービス	22
AFP 文書を AIX で JPEG に変換すると WebSphere Application Server がシャットダウンする	22
ビュー・サービスが UNIX 環境で正しく動作しない	22
AIX 上の AFP イメージ	23
WebLogic アプリケーション・サーバーの場合、ビュー・サービスが UNIX コンピューターで正しく動作しない	24
ビューアー・アプレット	24
複数ページ文書の印刷	24
Mod:ca ファイルがカスタム・クライアント・アプリケーションで正しく表示されない	24
モノクロ・イメージの機能拡張	24
印刷イメージ・ファイルが切り捨てられるか不均衡になる	25
ドキュメンテーションの更新	27
新規文書	27

WebSphere Information Integrator Content Edition のアップグレード	27
EJB コネクターのデプロイ	27
Netscape Directory Server 用の LDAP シングル・サインオンの構成	28
コネクターの照会結果のソート・メソッド	30
IBM Portal Document Manager コネクターがレンディションを取得する方法	31
ビューアー・アプレットの機能拡張	31
Web クライアント・フォームのカスタム JSP タグの概要	33
文書の修正	43
全体的な修正	44
インストール	44
デプロイ	47
リポジトリへのアクセスの構成	48
コンテンツ統合サーバーの構成と管理	50
アプリケーションの開発	52
WebSphere Information Integrator を使ったデータとコンテンツの統合	54
特記事項	57
商標	59
IBM と連絡を取る	61
製品情報	61
資料についてのコメント	61

リリース・ノートについて

このリリース・ノートには、WebSphere® Information Integrator Content Edition バージョン 8.3 の最新情報を記載します。

このリリース・ノートは、2 つの部分から構成されています。最初の部分では、発行時点で既知であり、最新バージョンの製品に適用される、問題、制限事項、および解決策の詳細について説明します。このリリースの WebSphere Information Integrator Content Edition の未解決の問題を理解するには、この部分をお読みください。2 番目の部分では、WebSphere Information Integrator Content Edition インフォメーション・センターの更新について説明します。

Web での WebSphere Information Integrator Content Edition のサポート

WebSphere Information Integrator および最新のサポート問題の詳細については、次の WebSphere Information Integrator および WebSphere Information Integrator Content Edition サポート Web ページを参照してください:

<http://www-306.ibm.com/software/data/integration/db2ii/supportcontent.html>

既知の問題、制限事項、および解決策

以下に、WebSphere Information Integrator Content Edition バージョン 8.3 の現在既知の制限事項、問題、および解決策について説明します。制限事項および制約は、この製品の他のリリースには、適用できる場合もあればできない場合もあります。

インストール

インストール・ウィザードの表示されたディスク・スペース要件は不正確です。

インストール中に、インストール・サマリー画面に、WebSphere Information Integrator Content Edition をインストールおよび使用するためのディスク・スペース要件が表示されます。選択したインストール・タイプが「カスタム」または「フル」の場合、この最小必要要件に約 80 MB を追加します。また、コネクタなどの他のコンポーネントについて、一時ファイルの保管のためにスペースがさらに必要になる場合があります。

Microsoft NTFS コネクタが完全にアンインストールされない

Microsoft® NTFS コネクタをアンインストールする場合、コネクタが完全にアンインストールされず、アンインストール・アプリケーションがエラーを戻します。

この問題を解決するには、アンインストール・アプリケーションの実行の前後に以下の手順を完了します。

1. 「スタート」 -> 「プログラム」 -> 「管理ツール」 -> 「コンピューター管理」をクリックします。
2. 「サービスとアプリケーション」をダブルクリックします。
3. 「Indexing Service」を選択し、「アクション」 -> 「停止」をクリックして、Indexing Service を停止します。
4. 「Indexing Service」をダブルクリックします。
5. 「NTFSBridge カタログ」を選択し、「アクション」 -> 「削除」をクリックしてカタログを削除します。
6. 必要であれば、Indexing Service を再始動します。

アプリケーションのインストールおよびアンインストールが AIX で失敗する

インストール・プロセスの最後で、インストール・アプリケーションが停止します。`java -cp setup.jar` 実行コマンドを使用してインストール・アプリケーションを実行させると、コンソールに `UnsatisfiedLinkException` が表示されます。その後ウィザードの「完了」をクリックすると、`SQLException` が戻されます。ランチャーを使用してインストール・アプリケーションを実行した場合、エラー・メッセージは戻されませんが、操作は失敗します。

この問題は、有効なユニコード文字コードが続いていない '¥u' が環境変数に含まれている場合に発生します。例えば、bash シェルには通常、値 '¥u@' を含むことができる PS1 と呼ばれる変数セットが組み込まれています。

この問題を解決するには、すべての環境変数プロパティから無効なユニコード値を除去します。例えば、bash シェルの共通問題を訂正するには、PS1 プロパティに '\$USER@' を設定します。

WebSphere Application Server 6.x にデプロイされたコンテンツ統合サーバーにアクセスしようとすると、リモート・クライアントが JNDI エラーを検出する場合があります

WebSphere Application Server 6.x で稼働しているコンテンツ統合サーバーに、管理ツール、WebSphere Information Integrator Content Edition ラッパー、またはコマンド行サンプルなどの、リモート・クライアント・アプリケーションを使用してアクセスすると、jndiUnavailCommErr エラーが戻される場合があります。

この問題を解決するには、以下のようにします。

1. WebSphere Application Server 管理コンソールで、「サーバー」 -> 「アプリケーション・サーバー」 -> 「server1 通信」 -> 「ポート」 -> 「BOOTSTRAP_ADDRESS」の順にクリックします。
2. 「ホスト」値をローカル・ホストから WebSphere Application Server が稼働するコンピューターの IP アドレスに変更します。
3. 構成変更を保存します。
4. WebSphere Application Server をシャットダウンして再始動します。

トルコ語でアプリケーションのインストールおよびアンインストールを実行できない

InstallShield の既知の問題のために、トルコ語のロケール設定でアプリケーションのインストールまたはアンインストールを実行すると、例外エラーが戻され、インストールまたはアンインストールは失敗します。

この問題を解決するには、システム・ロケールを英語またはトルコ語以外の他のロケールに変更して、インストールまたはアンインストール・アプリケーションを実行します。インストールまたはアンインストールが完了後、ロケールをトルコ語に戻します。

また、インストール処理中に、言語選択画面でトルコ語でインストールを表示することを選択すると、インストール・タイプ「フル」の場合のみ正常に実行できます。「コネクタのみ」または「カスタム」インストール・オプションをするには、言語選択画面からトルコ語以外の言語を選択します。

UNIX で Uninstaller.bin スクリプトが正しく動作しない

アンインストール・アプリケーションが UNIX® コンピューターで `uninstaller.bin` スクリプトを使用して開始されている場合、アンインストール・アプリケーションはオープンされません。

この問題を解決するには、Java™バージョンの `java -cp uninstall.jar` コマンドを使用してインストーラーを実行するか、ランチャーに `- is:javahome <JVM へのパス>` オプションを指定します。例えば、次のようにします。

```
./uninstaller.bin -is:javahome /opt/IBM/WebSphere/AppServer/java
```

IBM Lotus Notes コネクタをインストールする場合にエラーが戻される

Lotus® Notes® クライアントが組み込まれていないコンピューターに Lotus Notes コネクタをインストールすると、Lotus Notes コネクタを参照するエラーが戻されます。しかし、インストール・アプリケーションは実行しています。

Lotus Notes コネクタを使用しない場合、または Lotus Notes コネクタを別のコンピューターにインストールしている場合は、このエラーを無視しても問題ありません。

Lotus Notes コネクタを、インストール・アプリケーションが稼働しているのと同じコンピューターにインストールする場合は、Lotus Notes クライアントの該当するバージョンが、Lotus Domino® 管理者オプションが選択された Windows® サーバーにインストールされていることを確認してください。その後、インストール・アプリケーションを再実行します。

WebSphere Application Server で EJB コンテナを再始動すると、そのコンテナ内の EJB のクライアントがエラーを戻すことがある

コンテンツ統合サーバーのコンポーネントを含む EJB コンテナが再始動されると、これらのコンポーネントのクライアントが次のエラーで失敗する場合があります。

```
java.rmi.RemoteException: CORBA TRANSIENT...  
which is caused by  
org.omg.CORBA.TRANSIENT: java.net.ConnectException: Connection refused: ...
```

この問題を解決するには、EJB 自体を再始動するときには常に、EJB のクライアントを再始動します。例えば、コネクタがアクセス・サービスとは別個の EJB コンテナにデプロイされ、コネクタの EJB コンテナを再始動する場合、アクセス・サービス EJB コンテナも再始動する必要があります。

EJB のクライアントを再始動する代替策としては、EJB クライアントのデフォルトの JNDI キャッシュ・プロパティ設定を変更します。以下のコネクタのプロパティは、管理ツールを使用して変更する必要があります。

- `com.ibm.websphere.naming.jndicache.cacheobject`
- `com.ibm.websphere.naming.jndicache.cachename`

`com.ibm.websphere.naming.jndicache.cacheobject` プロパティは、デフォルトで `populatedURL` に設定されています。これは任意の値に変更できます。

`com.ibm.websphere.naming.jndicache.cachename` プロパティは、デフォルトで `populated` に設定されています。有効な値は、`populated`、`cleared`、および `none` です。

EJB としてデプロイされたコネクタの場合は、管理ツールにプロパティを設定します。コンテンツ統合サーバー API によって呼び出されるアクセス・サービス EJB の場合は、クライアント・アプリケーションにプロパティを設定します。

JNDI キャッシュ・プロパティの設定の詳細については、WebSphere Application Server 文書を参照してください。

コマンド行ツール

コマンド行からの Windows での一部のコンテンツ統合サーバー・アプリケーションの開始がエラーになる

Windows での環境変数の長さの制限のために、コマンド行バッチ・ファイル config.bat では、ドライブ W: が WebSphere Application Server のインストール・ディレクトリー・パスにマップされます。このマッピングにより、ほとんどの場合に発生する長さエラーを防止できます。

しかし、次のエラーが依然として戻される場合があります。

- Drive already SUBSTed

このエラーは、ドライブ W: が既にシステムでマップされているか、以前の config.bat のインスタンスがドライブ W: を WebSphere Application Server のインストール・ディレクトリー・パスに既にマップされている場合に発生します。

この問題を解決するには、ドライブ W: が既にシステムでマップされている場合は、テキスト・エディターで config.bat をオープンして、W: のすべてのオカレンスを未使用のドライブ名に変更します。前の config.bat のインスタンスが既にドライブ W: を WebSphere Application Server のインストール・ディレクトリーにマップしている場合は、このエラーを無視しても問題ありません。

- Path not found - C:¥Program Files¥IBM¥WebSphere¥AppServer

この問題を解決するには、WebSphere Application Server が、コンテンツ統合サーバー稼働する J2EE サーバーの場合、テキスト・エディターで config.bat をオープンして SET WAS_HOME=C:¥Program Files¥IBM¥WebSphere¥AppServer を WebSphere Application Server がインストールされているロケーションに変更します。WebSphere Application Server が、コンテンツ統合サーバー稼働する J2EE サーバーでない場合は、このエラーを無視して問題ありません。

管理ツール

リポジトリー定義を変更すると、インポートされたデータ・マップが動作しない

XML ファイルからデータ・マップをインポートする場合、インポートされたデータ・マップ内のコネクタの PersistentID プロパティが、現行の構成内の対応するコネクタの PersistentID プロパティと一致しないことがあります。この問題のコネクタには、データ・マップ内のコネクタの横に感嘆符 (!) が表示されて、コネクタが使用できないか、正しく構成されていないことを示します。

この構成問題を解決するには、以下のようにします。

1. 感嘆符がマークされたコネクタをデータ・マップから除去します。
2. 対応するコネクタを現行の構成から再度追加します。

XML を編集してこの構成問題を解決するには、以下のようにします。

1. インポートされたデータ・マップを除去します。
2. コネクタの PersistentID を現行の構成内の対応する PersistentID で置換して、データ・マップ XML ファイルを変更します。
3. XML ファイルを保存します。
4. データ・マップを再度インポートします。

WebSphere Application Server 6.x で、サブスクリプション・グループのテスト・コマンドが動作しない

サブスクリプション・イベント・サービスが WebSphere Application Server 6.x にデプロイされている場合、管理ツールのサブスクリプション・グループのテスト・コマンドは動作しません。

この問題を解決するには、テストするサブスクリプション・グループにサブスクリプションを作成して、サブスクリプションが起動されるようにします。

1. テストするサブスクリプション・グループにサブスクリプションを作成します。サブスクリプションのターゲットを変更して、サブスクリプション・グループのすべてのイベント・フィルターを通過して、該当するイベント・ハンドラーを起動できるようにします。

詳細については、サンプル・プログラムまたはサブスクリプション・イベント・サービス API を参照してください。

2. サブスクリプション・イベント・サービスの管理アプリケーションをオープンします。

WebSphere Application Server 6.x のデフォルトでは、サブスクリプション・イベント・サービスの管理アプリケーションは

`http://<localhost>:9081/subscriptionservices` にあります。

3. 必要であれば、サブスクリプション・グループを開始します。
4. 評価ツールバー・ボタンをクリックします。

このアクションにより、グループ内のすべてのサブスクリプションが評価され、サブスクリプションの初期状態が保存されます。

5. サブスクライブした項目を、1 つ以上のそのプロパティを変更して、更新します。
6. ステップ 4 を繰り返します。

数分以内に、グループに割り当てられたハンドラーが起動されます。ハンドラーが起動されない場合は、以下のステップを実行します。

- a. サブスクリプション・グループへのリンクをクリックして、イベント・パスの各停止に送信されるメッセージ数を記述する統計セットを確認します。

- b. サブスクリプション・イベント・サービスの送達不能キューを検査して、エラー・メッセージが送信されていないか確認します。

コネクタ

Documentum コネクタ

UNIX 上の Documentum コネクタにログオンしようとする LogonException が発生

UNIX コンピューターにインストールされた Documentum コネクタにログオンすると、次のエラーが戻されます。

```
com.venetica.vbr.client.LogonException: the following exception occurred  
logging on: java.rmi.ServerError Error occurred in server thread;  
nested exception is: java.lang.Error: Failed to load preferences:  
java.io.FileNotFoundException: Cannot locate file - dfc.properties
```

この問題を解決するには、<DOCUMENTUM_HOME>/dfc/config ディレクトリー (<DOCUMENTUM_HOME> は Documentum インストール・ディレクトリー) を、Documentum コネクタのホストである Java 仮想マシン (JVM) のクラス・パスに追加します。

FileNet CS コネクタ

同時ユーザー数が 50 を超える場合の、ファインダーおよび照会アクションの問題

同時ユーザー数が 50 を超える場合、ファインダーおよび照会アクション中に以下の問題が発生することがあります。

- コンテンツ統合サーバーを使用して FileNet CS リポジトリーにログオンできなくなります。ファインダーが正常に実行されません。次のエラーが RMI コンソールに表示されます。

```
2005-08-17 15:43:51,715 ERROR [Thread-24]:FOLDERFINDER!  
Could not obtain Folder using Finder :  
com.venetica.vbr.client.VeniceBridgeException: COEJ0003E:  
An unexpected error occurred.
```

- コンテンツ統合サーバーが照会またはファインダー要求に応答せず、J2EE アプリケーション・サーバー・ログにエラーが出力されます。
- 一連のエラーが発生します。メモリー不足エラーが RMI コンソールに表示されます。また、RMIBridge が例外で停止します。

この問題を回避するには、以下のいずれかのアクションを実行します。

- 「構成」 -> 「IDM 追加設定」 -> 「ディレクトリーおよびファイル」 -> 「ローカル・キャッシュ」 -> をクリックし、「最大キャッシュ文書数」値を 100 に設定して、統合文書管理 (IDM) クライアントを構成します。
- WebSphere Application Server 構成を変更します。
 1. 「サーバー」 -> アプリケーション・サーバー -> iiceServer -> Web コンテナ -> スレッド・プールをクリックして、「最大サイズ」値を 1000 に設定します。

2. 「サーバー」-> アプリケーション・サーバー -> **iiceServer** -> 「ORB サービス」-> スレッド・プールをクリックして、「最大サイズ」値を 1000 に設定します。
 3. 「サーバー」-> アプリケーション・サーバー -> **iiceServer** -> 「メッセージ・リスナー・サービス」-> スレッド・プールをクリックして、「最大サイズ」値を 1000 に設定します。
 4. 「リソース」-> 「WebSphere JMS プロバイダー」-> 「WebSphere キュー接続ファクトリー」-> 「VBRConnectionFactory」-> 接続プールをクリックして、「最大接続数」値を 1000 に設定します。
- RMIBridge.bat (Windows) または RMIBridge.sh (UNIX) の JVM 最大ヒープ・サイズの設定を『-Xmx256m』から『-Xmx512m』に変更して、RMIBridge の JVM 構成を変更します。
 - コンテンツ統合サーバーの管理ツールを使用して、FileNet CS リポジトリの別個のリモート・メソッド呼び出し (RMI) コネクター・インスタンスを参照する、少なくとも 3 つの RMI プロキシ・コネクター URL を定義します。RMI プロキシ・コネクターのプール・メソッドの使用法の詳細については、インフォメーション・センターを参照してください。

ゼロ・バイトのコンテンツ項目を取得しようとすると、エラーが戻るまで時間がかかる

IDM API の問題のために、FileNet CS リポジトリからゼロ・バイトのコンテンツ項目を取得しようとすると、エラーが戻るまで時間がかかることがあります。

現状では、この問題の解決策はありません。

英語以外の文字が注釈に正しく追加されない

英語以外の文字を含む注釈が FileNet CS コンテンツ項目に追加されている場合、英語以外の文字は使用できない形式でリポジトリから戻され、疑問符 (?) として表示されます。

この問題を解決するには、クライアント・アプリケーション (ビューアー・アプレットや Web クライアントなど) を稼働するコンピューターのロケールと、FileNet CS コネクターを稼働するコンピューターのロケールが、追加される英語以外の文字の言語に設定されていることを確認してください。コンテンツ統合サーバーを稼働するコンピューターのロケールは、変更する必要ありません。

FileNet CS および IS コネクター

多くの点によるフリーハンド注釈をビューアー・アプレットに作成すると、エラーが発生する

FileNet CS および IS の制限のために、300 点を超える、ビューアー・アプレットに作成されたフリーハンド注釈は保存されず、FileNet CS および IS コネクターから次の例外が戻されます。

```
AutomationException: 0x80041c77 - Annotation property F_POINTS cannot have more than 300 points. in 'IDM exception'
```

現状では、この問題の解決策はありません。

FileNet イメージ・サービス・リソース・アダプター・コネクター

イメージ・サービス・リソース・アダプター・リポジトリに複数接続すると、リポジトリのホストであるアプリケーション・サーバーが停止する

この問題は、コンテンツ統合サーバーのセッション・プールで許可された FileNet イメージ・サービス・リソース・アダプター (ISRA) ユーザーの最大数を超えた場合に発生します。

この問題を解決するには、以下のようにします。

1. FileNet ISRA リポジトリ のホストである J2EE アプリケーション・サーバーで、コンテンツ統合サーバーのセッション・プールに指定された最大合計ログイン・プロパティよりも 5 以上大きい値を、接続プールの最大接続プロパティに設定します。

例えば、10 ユーザーを接続する必要がある場合は、ISRA 最大接続を、少なくとも 15 接続を受け入れるように設定する必要があります。

2. コンテンツ統合サーバーのホストである J2EE アプリケーション・サーバーを再始動します。
3. FileNet ISRA リポジトリのホストである J2EE アプリケーション・サーバーを再始動します。

WebSphere Application Server での、Web クライアントを使用した ISRA リポジトリへのログオン

WebSphere Application Server で、Web クライアントを使用して FileNet ISRA リポジトリにログオンすると、次のエラーが戻されることがあります。

```
COEN0056E: An error occurred while retrieving contents for folder /  
from the repository
```

WebSphere Application Server バージョン 5.1.1.3 でのこの問題を解決するには、以下のようにします。

1. 管理コンソール・ページをオープンします。
2. サーバー -> 「アプリケーション・サーバー」 -> *<iiceServer>* -> 「Web コンテナー」 -> 「カスタム・プロパティ」 -> 「新規」をクリックします。
<iiceServer> は、FileNet ISRA コネクターがデプロイされているサーバーの名前です。
3. DisableMultiThreadedServletConnectionMgmt を true に変更します。

現状では、WebSphere Application Server 6.x についての解決策はありません。

FileNet P8 Content Manager コネクター

Web クライアントにコンテンツを作成すると、重複したプロパティがリストされる

FileNet P8 Content Manager コネクターを使用して Web クライアントに新規コンテンツを作成すると、表示されたプロパティのリストに重複したプロパティが含まれています。

この問題を解決するには、重複した各プロパティの最初のプロパティに必要な情報のみを指定して、「保存」をクリックします。

TIFF ファイルに誤った MIME 型が割り当てられる

バイト・オーダー型 IBM® PC の TIFF ファイルが FileNet P8 Content Manager コンテンツ項目として追加される場合、このファイルに誤った MIME 型が割り当てられます。

この問題を解決するには、サード・パーティーのグラフィックス・アプリケーションを使用して、バイト・オーダー型 IBM PC の TIFF ファイルを Macintosh のバイト・オーダー型の TIFF ファイルに変換します。

全文検索で検索できるコンテンツ項目が、検索不能としてフラグ付けされる

FileNet P8 Content Manger コンテンツ項目はすべて、fullTextSearchable = false とフラグが付けられています。false は、全文検索で検索できないことを示します。フラグが設定されていても、全文検索では、ターゲット P8 リポジトリで全文検索が使用可能であるコンテンツ項目を正しく戻します。

ユーザー名のプロパティ値を持つコンテンツ項目

ユーザー名のプロパティ値を持つコンテンツ項目を追加する場合、ユーザー名プロパティに、FileNet P8 ドメイン名を含んだ、完全なユーザー名が設定されていなければなりません。また、ユーザー名は FileNet P8 リポジトリに存在していなければなりません。例えば、SysAdmin@FILENETV3 です。

この問題を解決するには、ユーザー名のプロパティに、FileNet P8 ドメイン名を含む、完全なユーザー名を設定します。

& 文字が使用されたプロパティ名を含むコンテンツ項目

FileNet P8 Content Manager Java API の制限のために、アンパーサンド (&) を使用したプロパティ名を含むコンテンツ項目により、エラーが発生します。このエラーは、このようなコンテンツ項目を作成しようとしたとき、またはこのようなコンテンツ項目を取得しようとするとき発生する場合があります。

現状では、この問題の解決策はありません。

FileNet P8 Content Manager のバージョンが異なると、¥ または ' を含む照会の全文検索結果が異なる

FileNet P8 Content Manager バージョン 3.0 およびバージョン 3.5 の全文検索結果は、検索条件にバックスラッシュ (¥) または引用符 (') が含まれていると、異なります。

現状では、この問題の解決策はありません。

Windows コンピューター上で FileNet P8 Content Manager コネクタの使用頻度が非常に多いと、このコネクタが NotLoggedOnException を戻す

Windows コンピューターでの FileNet P8 Content Manager コネクタの使用頻度が非常に多いと、FileNet P8 Content Manager コネクタは、NotLoggedOnException とネスト化された java.net.BindException を戻します。

FileNet P8 Content Manager コネクタは、ネイティブ FileNet API を使用して FileNet P8 サーバーと通信します。ネイティブ FileNet P8 アーキテクチャーでは、FileNet P8 Content Manager Connector サーバーからネイティブ FileNet P8 リポジトリへの各呼び出しで、新規の接続が必要です。このために、いくつかの同時ユーザーがリポジトリにアクセスするときに、コネクタのホストのコンピューターで数千のポートがオープンされることがあります。この動作により、既に使用中のポートが、コネクタによって取り込まれることがあります。Windows が使用する一部のポートが予約されないで、FileNet P8 による通常のソケット作成で、これらのポートと競合することがあります。

この問題を解決するには、以下のようにします。

1. FileNet P8 Content Manager コネクタのホストとなるコンピューターで使用される可能性のあるすべての一時ポートの範囲を予約して、FileNet P8 API によってこの範囲内にポートが作成されないようにします。

例えば、Windows XP オペレーティング・システムの場合は、次のレジストリ・キーを追加します: My Computer\HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\ControlSet001\Services\Tcpip\Parameters\ReservedPorts。ReservedPorts エントリは REG_MULTI_SZ 型で、Windows が使用する可能性のあるすべてのポートを含むのに十分な大きさの範囲値でなければなりません。1000 から 30000 まで、などの範囲であれば、十分な大きさです。この値の設定の詳細については、Microsoft サポート記事 812873 を参照してください。

2. MaxUserPort 範囲を FileNet コネクタのホスト・コンピューターに設定して、ステップ 1 で作成した予約済み範囲の上限と MaxUserPort 範囲との間の範囲が、クライアント・コンピューターに設定されたロードに適切であるようにします。この値の設定の詳細については、Microsoft サポート記事 196271 を参照してください。

例えば、ポート 1000 から 9000 までを予約して、FileNet P8 がこの範囲にポートを作成できないようにし、MaxUserPort を 13000 に設定します。この設定により、コネクタは 4000 の一時ポートを使用できます。

FileNet P8 によって使用される可能性のある一時ポートの範囲は、許容セッション数または、指定されたリポジトリ・ポートでネイティブ FileNet P8 リポジトリに接続できる接続数以上でなければなりません。少ないと、FileNet P8 コンテンツ・コネクタは、指定されたポートでの FileNet P8 リポジトリへの最大接続数を超えると、java.net.ConnectException を戻します。

Hummingbird DM コネクター

前のリリースのコネクター構成をインポートできない

前のバージョンのコンテンツ統合サーバーから Hummingbird® DM コネクター構成をインポートする場合、データベース型プロパティの値を変更しようとする、管理ツールから `IllegalArgumentException` エラーが戻されます。

この問題を解決するには、以下の手順を実行します。

1. インポートした Hummingbird DM コネクター構成を管理ツールから除去します。
2. Hummingbird DM コネクターのインスタンスを新規に作成します。
3. 新規の Hummingbird DM コネクター・インスタンスを構成します。

多くのコンテンツ項目を取得後、コネクターのパフォーマンスが低下する

Hummingbird DM リポジトリのパフォーマンス、およびこの結果の Hummingbird DM コネクターのパフォーマンスは、数千のネイティブ・コンテンツ項目をリポジトリから取得すると、低下します。この問題は、Hummingbird DM Server キャッシュが、過大に拡張できる場合に発生します。

この問題を解決するには、以下のようになります。

1. Hummingbird DM Server Manager を開始します。
2. 「結果」タブをクリックします。
3. 「最大合計サイズ (KB)」フィールドのデフォルト値を 2000000 からより小さな値 (例えば、200000) に変更します。
4. 変更内容を保存します。

必要であれば、詳細について、Hummingbird DM 文書を参照してください。

IBM DB2 Content Manager コネクター

英語以外の文字が注釈に正しく追加されない

英語以外の文字を含む注釈が IBM DB2® Content Manager コンテンツ項目に追加されている場合、英語以外の文字は使用できない形式でリポジトリから戻され、疑問符 (?) として表示されます。

この問題を解決するには、クライアント・アプリケーション (ビューアー・アプレットや Web クライアントなど) を稼働するコンピューターのロケールと、IBM DB2 Content Manager コネクターを稼働するコンピューターのロケールが、追加される英語以外の文字の言語に設定されていることを確認してください。コンテンツ統合サーバーを稼働するコンピューターのロケールは、変更する必要ありません。

作業項目照会が Web クライアントで使用できない

Content Manager コネクターは、コンテンツまたはワークフローに対しての照会をサポートしますが、1 つの照会で両方はサポートしません。Web クライアントは、ユーザーがコンテンツまたはワークフローを照会するかどうかを指定することを許可

しません。コンテンツの照会の一般的なケースをサポートするために、CM コネクターは、Web クライアントを使用して起動されたすべての照会をコンテンツ照会として扱います。

現状では、この問題の解決策はありません。

IBM DB2 Content Manager バージョン 8.2 フィックスパック 8 リポジトリに対しての照会が失敗

照会が、次のエラー・メッセージで失敗する場合があります。

```
com.ibm.mm.sdk.common.DKException: DGL3841A: Attribute does  
not exist in entity: 'ORIFNAME' P1
```

この問題を解決するには、IBM DB2 Content Manager リポジトリをバージョン 8.2 フィックスパック 10 にアップグレードします。

IBM DB2 Content Manager OnDemand コネクター

同じプロパティに対して実行された、OR を含む照会の限定された結果

IBM DB2 Content Manager OnDemand リポジトリは、検索可能なプロパティそれぞれについて、単一値のみをサポートします。このために、同じプロパティに対して実行された OR 照会は、最後に指定された値の結果のみを戻します。例えば、照会 WHERE region LIKE Maine OR region LIKE Vermont は、領域プロパティに値 Vermont を持つ結果のみを戻します。

別のプロパティに対して実行された、OR を含む照会は、すべての結果を戻します。例えば、照会 WHERE region LIKE Maine OR location LIKE city は、領域プロパティに値 Maine を持つ結果と、ロケーション・プロパティに値 city を持つ結果を戻します。

現状では、この問題の解決策はありません。

IBM Lotus Domino Document Manager コネクター

演算子 <、>、<=、および >= を含むストリング・フィールドの照会

演算子 『<』、『>』、『<=』、『>=』を含むストリング・フィールドの照会では、結果が戻されず、例外も戻されません。これらの演算子は、IBM Lotus Domino Document Manager 検索ではサポートされません。

現状では、この問題の解決策はありません。

IBM Lotus Notes および Lotus Notes 2.0 コネクター

RMI プロキシ・サーバーで、組み込みオブジェクトが Web コンポーネントに表示されない

組み込みオブジェクトのサポートには、リモート・メソッド呼び出し (RMI) プロキシ・コネクターが Domino サーバーと同じコンピューターに配置されている必要があります。RMI プロキシ・コネクターは、Domino サーバーが使用するファイル・システムにアクセスする必要があります。

Web クライアントを使用してコンテンツをプレビューできない

IBM Lotus Notes および Lotus Notes 2.0 コネクタ・コンテンツを、コンテンツ統合サーバー Web クライアントでプレビューするには、コネクタに HTTP アクセス可能機能構成されている必要があります。HTTP アクセス可能構成の詳細については、WebSphere Information Integrator Content Edition インフォメーション・センターを参照してください。

IBM WebSphere Portal Document Manager コネクタ

NullPointerException エラーで照会が失敗する

照会が長時間実行され、NullPointerException エラーが戻される場合があります。この問題は、正確な形式の照会や、Java コンテンツ・リポジトリによって使用される JCRDS (Java コンテンツ・リポジトリ・データ・ソース) での接続数などの要因によって発生することがあります。

この問題を解決するには、IBM WebSphere Portal Document Manager コネクタの前提条件 WebSphere Portal Server APAR PK10952 を適用します。

照会の実行が低速

基となる Portal Document Manager リポジトリの制限のために、照会に指定された項目クラスが組み込まれていなくて、検索コンテナが指定されていない場合、照会の実行が低速になることがあります。指定された項目クラスが `ibmcmnt:contentFolder` で、検索コンテナが指定されていない場合にも、照会の実行が低速になることがあります。

この問題を解決するには、`ibmcmnt:contentFolder` 以外の特定の項目クラスを照会に組み込むか、検索コンテナを照会に指定します。現状では、このオプションのいずれも可能でない場合、この問題の解決策はありません。

全文照会

全文照会には、次の既知の制限があります。

- 単一文字置換ワイルドカード文字、`?` は無効です。
- 複数文字置換ワイルドカード文字、`*` は有効ですが、ワードの最終文字としてのみ有効です。フレーズの一部では無効です。また、複数ワイルドカード文字、`*` は、AND または AND NOT が照会で使用されている場合は無効です。
- AND および OR は、別個に使用されている場合は有効ですが、両演算子を同一照会で使用することはできません。
- NOT は AND と共に使用される場合のみ有効で、OR の場合は無効です。
- 括弧文字、(および) でグループ化された照会式は無効です。

リポジトリ・ファイルの MIME 型が設定されない

Portal Document Manager (PDM) リポジトリは、リポジトリに格納されるファイル・タイプごとに適切に構成されている必要があります。拡張子が適切に構成されていない場合、ファイルは MIME 型 `unknown/unknown` として表示されます。デフォルトでは、Microsoft Office のファイル拡張子は構成されません。

この問題を解決するには、WebSphere Portal Server 文書内のファイル MIME 型の構成についての説明を参照してください。

SOAP プロキシ・コネクタ

WebSphere Portal Server の制限とコンテンツ統合サーバーの JNDI 情報設定のために、IBM WebSphere Portal Document Managerコネクタを、SOAP プロキシ・コネクタを介して使用するよう構成できません。

現状では、この問題の解決策はありません。

WebSphere Application Server での、Direct EJB 構成の使用エラ

IBM WebSphere Portal Document Manager (PDM) コネクタが Direct EJB 構成を使用する場合、コンテンツ統合サーバーと PDM コネクタ間の通信は、Object Request Broker (ORB) を介して WebSphere Application Server によって処理されます。

PDM コネクタに行なった一部の呼び出しが、ORB サービスのデフォルトのタイムアウト設定よりも長くかかることがあります。これにより、例外が戻されます。

この問題を解決するには、ORB サービスのタイムアウト設定値を増やします。詳細については、WebSphere Application Server 文書を参照してください。

RepoItem バージョンのリストが誤っている場合がある

IBM Portal Document Manager コネクタによって戻されるコンテンツ RepoItem バージョンのリストは、コンテンツ・オブジェクトが現行作業バージョン以外のバージョンを指定して取得されるか、または現行ログオン・セッション中に、項目の現行作業バージョン以外のバージョンが取得された場合に、正確でないことがあります。

この問題を解決するには、RepoItem を取得する場合にはバージョンを組み込まないでください。また、バージョンを指定して、RepoItems が既に取得されている場合は、コネクタからログアウトし、再度ログオンして、正しいバージョンのリストで項目を取得します。

WebSphere Portal Server 許可を変更する許可がなくても、コンテンツ項目に割り当てられた許可を表示できる

IBM Portal Document Manager コネクタから戻されたコンテンツ項目の許可を表示する場合、ログインしたユーザーに WebSphere Portal Server の許可を変更する許可があるかどうかには関係なく、項目に割り当てられた許可を表示できます。

現状では、この問題の解決策はありません。この情報が機密の場合は、エンド・ユーザーに公開しないでください。

OpenText Livelink コネクタ

OpenText Livelink を使用すると、照会が予期せずに停止する

照会によって戻された結果セットに、Livelink の作業項目に以前に付加されたコンテンツ項目が含まれている場合、照会が次のエラーで予期せずに終了します。

InvalidQueryException COEN0155E : Invalid query expression encountered.

このエラーは OpenText Livelink 9.2 で発生しますが、OpenText Livelink 9.5 では発生しません。

この問題を解決するには、OpenText Livelink 9.2 についての、2005 年 9 月の月次パッチをインストールします。

多くの結果を戻す照会が、ファイアウォール・タイムアウトを超過したために、失敗する

照会が多数の結果を戻す場合、失敗することがあります。この問題は、OpenText Livelink 9.2 の検索ファイアウォール制限のために発生します。

この問題を解決するには、以下のようにします。

1. 「OpenText Livelink 管理」ページで、「システム・ボリュームのブラウズ」をクリックして「Livelink システム」ページにアクセスします。
2. preprocess_prefix データ・ソース・フォルダー・リンクをクリックします。エンタープライズ索引の場合、エンタープライズ・データ・ソース・フォルダーをクリックします。
3. 各検索エンジンの「関数」アイコンをクリックして、「停止」をクリックします。
4. 検索エンジンの「関数」アイコンをクリックし、「情報」をクリックして、「詳細設定」をクリックします。
5. 「ファイアウォール」フィールドにより大きな数値を入力して、検索ファイアウォール・タイムアウト値を増やします。
6. 「更新」をクリックします。
7. 検索エンジンの「関数」アイコンをクリックして、「開始」をクリックします。

リレーショナル・データベース管理システム・コネクター

ユニコード・クリデンシャルで RDBMS リポジトリにログオンできない

ユーザー名またはパスワードにユニコード文字が含まれている場合、RDBMS リポジトリにログオンできません。ログオンすると、LogonException エラーが戻されます。次のエラーが表示される場合もあります: com.ibm.db2.jcc.b.SqlException: Unicode string can't convert to EbcDic string。この問題は、ユニコード文字をサポートしない JDBC ドライバーを使用する場合にのみ発生します。

この問題を解決するには、ユーザー名およびパスワードからすべてのユニコード文字を除去します。

Stellent コネクター

コンテンツ項目のバージョン情報が逆順にソートされる

コンテンツ項目のバージョン情報が、Stellent コネクターによって逆順にソートされます。例えば、6 つのバージョンのコンテンツ項目がある場合、バージョン情報はバージョン 6、バージョン 5、バージョン 4、バージョン 3、バージョン 2、およびバージョン 1 の順にソートされます。

現状では、この問題の解決策はありません。

WebSphere Information Integrator Content Edition ラッパー

LIKE 演算子を含む照会

LIKE 演算子を使用する照会が、次のエラー・メッセージで失敗する場合があります。

```
SQL0901N The SQL statement failed because of a non-severe system error.  
Subsequent SQL statements can be processed. (Reason "Invalid data type".)  
SQLSTATE=58004
```

データ・マップを使用する場合に、この問題を解決するには、サポートされる演算子のリストから LIKE を選択解除します。

Lotus Notes コネクターの照会

Lotus Notes コネクターの照会では、項目クラスの検索をサポートしませんが、検索コンテナーは必要です。ただし、ラッパーには、データ・マップ、項目クラス、またはこの両方が指定されている必要があります。また、Lotus Notes コネクターは、述部のない照会はサポートしません。MAX_RESULTS カスタム関数を使用して述部のない照会をサポートするようにニックネームが作成された場合でも、述部のない照会は失敗します。

これらの問題を解決するには、以下のいずれかのアクションを実行します。

- 照会されるすべてのプロパティを含むデータ・マップを作成し、DATA_MAP オプションを使用したニックネームの作成中、または照会を VBR.DATAMAP() カスタム関数を使用して実行時に、ラッパーでデータ・マップを使用します。
- Lotus Notes コネクターに渡すことのできる照会に述部を常に指定します。

多くの行を戻すコンテンツ検索ユーザー定義関数

コンテンツ検索ユーザー定義関数 (UDF) が多くの行を戻すと、エラーが発生する場合があります。例えば、次の UDF は多くの行を戻し、エラーを発生することがあります。

```
SELECT VBR.GETCONTENTLOOKUP('http://localhost:8080/VeniceBridge/NATIVECONTENT/? URN=  
' || VBR_URN, 'y', 'IICESERVER_CM') from NICKNAME
```

この問題を解決するには、UDF の use_session パラメーターに Y が設定されていることを確認します。

VBR.GETCONTENTLOOKUP 関数がエラーを戻す

VBR.GETCONTENTLOOKUP 関数に指定されたサーバー名パラメーターは、大/小文字を区別します。

この問題を解決するには、以下のいずれかのアクションを実行します。

- サーバー名が CREATE SERVER ステートメント (大/小文字を区別しない) 中に引用符で囲まれていない場合、サーバー名パラメーターをすべて大文字に設定します。
- サーバー名が CREATE SERVER ステートメント (大/小文字を区別) 中に引用符で囲まれている場合、サーバー名パラメーターを、CREATE SERVER ステートメント中に設定されているのと同じように正確に大文字化します。DB2 カタログを照会して、名前を確認します。例えば、次のコマンドを発行します。

```
SELECT servername FROM SYSCAT.SERVERS
```

IS NULL 述部と NULL 値に代わる空ストリング値

NULL 値を照会すると、NULL ではなく空ストリング値を戻すコネクタがあります。

現状では、この問題の解決策はありません。

ニックネーム作成とセッション・プール

ニックネーム・サーバーがセッション・プールに定義されている場合、WebSphere Application Server バージョン 5.1.1.3 にデプロイされたコンテンツ統合サーバーでラッパーが使用されると、ニックネームが正常に作成されないことがあります。

この問題を解決するには、call

```
sqlj.install_jar('file:<WS_JARS>/ejbportable.jar', 'ejbportable') コマンド  
を実行します。ここで、<WS_JARS> は ejbportable.jar ファイルをインストールする  
WebSphere Application Server の lib ディレクトリー (C:/Program  
Files/WebSphere/AppServer/lib など) です。
```

サブスクリプション・イベント・サービス

管理ツールからの JMX サーバーの JNDI 検索

BEA WebLogic Application Server 以外のアプリケーション・サーバー (WebSphere Application Server など) を使用している場合、管理ツールからの JMX サーバーの JNDI 検索でエラーが発生します。

この問題を解決するには、サブスクリプション・イベント・サービスの JMX JNDI 情報の JNDI 名プロパティにブランク値を設定します。このプロパティは、BEA WebLogic Application Server を使用している場合のみ必要です。他のすべてのアプリケーション・サーバーに関してのプロパティは、ブランクでなければなりません。

サブスクリプション・グループのインポートされたイベント・フィルターが不確定な順序で適用される

サブスクリプション・グループの複数のインポートされたイベント・フィルターが適用される順序は、管理ツールを使用してそのサブスクリプション・グループに設定された順序と整合していません。各イベント・フィルターは、そのいずれかがイベントをリジェクトするまで、またはすべてのフィルターによってイベントが受け入れられるまで、不確定な順序で使用されます。

現状では、この問題の解決策はありません。

WebSphere Application Server 6.x では、カスタム・アプリケーションで SubscriptionGroup.evaluate API メソッドを使用するように構成する必要がある

WebSphere Application Server 6.x では、カスタム・アプリケーションを作成し、SubscriptionGroup.evaluate コマンドを使用してサブスクリプション・グループを検証する場合は、いくつかの追加構成が必要です。WebSphere Application Server 6.x では、J2EE サービス (ネーミング (JNDI 検索) およびメッセージング (JMS) など) を実行するカスタム・アプリケーションが J2EE アプリケーション・クライアントとして構成されている必要があります。

カスタム・アプリケーションを J2EE アプリケーション・クライアントとして実行するには、次の手順で行ないます。

1. 実行時に、アプリケーション・モジュール (.ear ファイル) をアセンブルして、アプリケーション・サーバーにインストールします。
2. Windows で、アプリケーション・クライアント・リソース構成ツール (ACRCT) を使用してアプリケーションをデプロイします。
3. WebSphere LaunchClient でアプリケーションを開始します。

J2EE アプリケーション・クライアントの詳細については、WebSphere Application Server 6.x インフォメーション・センターを参照してください。

統合 API

リモート・クライアントでアプリケーションを実行すると、テキスト・ファイルが作成される

アプリケーションを統合 API を使用して、WebSphere Application Server に接続されたリモート・クライアントで実行すると、テキスト・ファイルが現行ディレクトリーに orbtc.*.txt という名前で作成され、以下の内容が組み込まれます。

```
16:44:00.969 com.ibm.rmi.corba.PluginRegistry loadPrereqPluginsGroupThree:268
P=40641:0=0:CT ORBRas[default] org.omg.CORBA.INTERNAL:
CONNECTIONINTERCEPTOR_INVALID_CLASSNAME vmcid: 0x49421000 minor code: 5B
completed: No org.omg.CORBA.INTERNAL:
CONNECTIONINTERCEPTOR_INVALID_CLASSNAME vmcid: 0x49421000 minor code: 5B
completed: No
```

このファイルは削除できます。このファイルは、製品機能またはロギングには不要です。

セッション・プールから取得したユーザー・オブジェクトでのメソッドの起動

セッション・プールから取得したユーザー・オブジェクトでメソッドを起動すると、`java.rmi.NoSuchObjectException` エラーが発生する場合があります。このエラーは、ユーザー・オブジェクトのセッション・プール `MaxCheckoutTimeMs` パラメーターを超過したために、ユーザー・オブジェクトの有効期限が切れた場合に発生します。

このユーザー・オブジェクトを再度取得するようにアプリケーションを設計するか、またはこの状態が発生したときに、より適切なメッセージを表示します。

Web クライアント

複数值プロパティを更新できない

リポジトリ項目の複数值プロパティは Web クライアントで正しく表示されますが、Web クライアントを使用して更新することはできません。代わりに統合 API を使用すると、複数值プロパティを更新できます。

複数のコンテンツ・バージョンが作成される

Web クライアントは、コンテンツのチェックインと更新に別個の呼び出しを行いません。コンテンツに対する変更ごとに新規バージョンを自動的に作成するようにリポジトリが構成されている場合、この動作により複数のバージョンが作成されます。

現状では、この問題の解決策はありません。

Web クライアント構成ファイルでユニコード文字がサポートされない

Web クライアント構成ファイル `wc-config.xml` は、ユニコード文字またはユニコード文字エスケープ・シーケンスをサポートしません。 `8859_1` 文字セットの文字のみが正しく認識されます。

現状では、この問題の解決策はありません。

フォーム生成ツールは、サンプル・エントリーも基本ファイル名しか組み込まない

カスタム・フォーム生成で表示されるサンプルの構成エントリーには、生成ファイルに使用されるパスは組み込まれていません。構成エントリーのパスは、`webclient/forms` ディレクトリーに関して相対でなければなりません。生成ファイルは正しく作成されます。ただし、サンプルの構成エントリーは誤っています。

FormGen プログラムは、サンプル・エントリーの基本ファイル名しか組み込みません。複雑なディレクトリー構造を使用する場合は、そのディレクトリー構造を反映するようにサンプルを変更する必要があります。

Web クライアントを使用して表示されるアプリケーション文書内のイメージをリフレッシュする必要がある場合がある

アプリケーション文書 (Microsoft Word または PowerPoint 文書) を Web クライアントで表示すると、以前に表示した文書内のイメージが文書に表示される場合があります。

この問題を解決するには、プレビュー・フレームを右クリックして「リフレッシュ」を選択します。

TIME 型のプロパティ値が予期された時間より 1 時間違って表示される場合がある

TIME プロパティを Web クライアントで表示すると、値が、予期された時間より 1 時間違って表示されることがあります。

TIME プロパティは、時刻値には日付が関連付けされていないので、標準時 (つまり、冬時間) でクライアントの時間帯に変換されます。日付が 5 月から 10 月の間の DATETIME 型のその他のプロパティは、夏時間調整を考慮してクライアントの時間帯に変換されます。時間帯は Web クライアントに明示的に表示されないのので、時刻が 1 時間違って表示される場合があります。

現状では、この問題の解決策はありません。

使用可能なリポジトリのサブセットを表示するようなワークスペースの構成が機能しない

使用可能なリポジトリのサブセットのみを表示するようにユーザーのワークスペースが構成されていても、ユーザーに使用可能なすべてのリポジトリが表示され、ユーザーがアクセスできます。

現状では、この問題の解決策はありません。

Web コンポーネント・ポートレット

ノード管理機能 Web コンポーネントから開始されたアクションにより、ポートレット・ウィンドウが正しく表示されない

ポートレットにデプロイされているノード管理機能 Web コンポーネントから「削除」または「ショートカットの作成」コマンドを発行すると、ポートレット・ウィンドウが予期しない方法でリフレッシュします。例えば、「削除」コマンドを発行すると、削除アクションが行なわれますが、ページがリフレッシュされて、コンテンツ統合サーバー Web クライアントのすべてがポートレット・ウィンドウに表示されます。

この問題を解決するには、以下のいずれかのアクションを実行します。

- クライアント・ブラウザの「戻る」をクリックして、正しいポートレット表示に戻ります。
- 「ショートカットの作成」コマンドの場合は、コンテンツ・リスト Web コンポーネントのコンテンツ・リストのルート・ノードからアクションを開始します。

- ・ 「ショートカットの作成」 コマンドの場合は、別個のポートレット構成にデプロイされているナビゲーター Web コンポーネントからアクションを開始します。

クライアント・ブラウザでオープンされたポートレット・ページ

使用するクライアント・ブラウザによっては、WebSphere Application Server からデプロイされて、クライアント・ブラウザでオープンされたポートレット・ページにエラーが戻され、リンクが切れていたりイメージが欠落したページが表示される場合があります。

この問題を解決するには、エラー・メッセージを無視して、ブラウザ・ページをリフレッシュします。

クライアント・ブラウザでオープンされたポートレット・ページに重複したコンポーネントが表示される

使用するクライアント・ブラウザによっては、ポートレット・ページがクライアント・ブラウザでオープンされた場合、コンポーネントが重複して表示されることがあります。この問題は、ポートレット・ページが WebSphere Application Server からデプロイされて、コンテンツ・リストまたはノード管理機能の次にデプロイされるナビゲーター・コンポーネントが含まれている場合に発生します。

この問題を解決するには、ブラウザ・ページをリフレッシュして正しいコンテンツを表示します。

コンテンツをチェックアウトする場合に、「ノード管理機能 Web コンポーネント詳細」 ペインが正しく表示されない

Web コンポーネント・ポートレットがインストールされていて、WebSphere Portal Server にデプロイされている場合、ノード管理機能コンポーネント・ポートレットのチェックアウト機能が正しく表示されません。「詳細」 ペインを使用してコンテンツがチェックアウトされると、ノード管理機能コンポーネント・ポートレット領域はブランク領域として表示されます。コンテンツ項目のチェックアウトは正常に完了しますが、ポートレットは正しくリフレッシュされません。

この問題を解決するには、ブラウザ・ページをリフレッシュしてノード管理機能ポートレットを再表示します。この問題は、コンテンツ統合サーバー Web クライアントのノード管理機能コンポーネントでは発生しません。

「ノード管理機能 Web コンポーネント詳細」 ペインでコンテンツを正しくチェックインできない

Web コンポーネント・ポートレットがインストールされていて、WebSphere Portal Server にデプロイされている場合、ノード管理機能コンポーネント・ポートレットのチェックイン機能が正しく動作しません。以前にチェックアウトされたコンテンツをチェックインするように「詳細」 ペインが構成されている場合に、チェックイン・オプションを選択してこのオプションをサブミットすると、次のページにページが見つからないという例外が表示されます。

現状では、この問題の解決策はありません。この問題は、コンテンツ統合サーバー Web クライアントのノード管理機能コンポーネントでは発生しません。

AFP 文書を AIX で JPEG に変換すると WebSphere Application Server がシャットダウンする

一部の有効な高性能印刷 (AFP™) 文書は、JPEG フォーマットに変換されるときに、Java メモリー・ダンプ・ファイルが生成され、WebSphere Application Server がシャットダウンされます。この問題は、AIX® 上の WebSphere Application Server バージョン 5.1.1.3 以降にデプロイされたコンテンツ統合サーバーの標準イメージ・コンバーターによって変換が実行された場合に発生します。

この問題を修正するには、分散 WebSphere Application Server バージョン 5.1.1.3 環境にビュー・サービスをデプロイして、バージョン 5.1.1.3 フィックスを適用します。

あるいは、他のすべての構成の場合、コンテンツ統合サーバーのホストの WebSphere サーバー上の Java 仮想マシン (JVM) JIT コンパイラーを使用不可にします。

1. WebSphere Application Server 管理ページ (<http://localhost:9090/admin> など) で、「サーバー」→「アプリケーション・サーバー」→ *Server* →「プロセス定義」→「Java仮想マシン」をクリックします。ここで、*Server* はコンテンツ統合サーバーです。
2. 「JIT を使用不可にする」をクリックします。
3. 変更内容をマスター構成に保存します。
4. WebSphere Application Server を再始動します。

パフォーマンスが懸念される場合は、別のアプリケーション・サーバー上のビュー・サービスのホストとなり、コンテンツ統合サーバーにインストールされているコンポーネントのすべてに対して JIT コンパイラーを使用不可にしないで、前のプロシージャーを使用してアプリケーション・サーバー上のビュー・サービスに対して JIT コンパイラーを使用不可にします。分散環境へのコンテンツ統合サーバーのコンポーネントのデプロイの詳細については、WebSphere Information Integrator Content Edition インフォメーション・センターを参照してください。

ビュー・サービスが UNIX 環境で正しく動作しない

ビュー・サービスが UNIX 環境で正しく動作しません。

この問題を解決するには、以下のいずれかのアクションを実行します。

- Linux® では、文書内のグラフィックスが赤の X 印で表示される場合、現在使用している Motif ライブラリーからコンテンツ統合サーバーが使用する Motif ライブラリー libXm.so.1 へのシンボリック・リンクを作成します。

例えば、Linux 環境で libXm 3.0.1 ライブラリーを使用する場合、次のコマンドを使用します。

```
ln -sf /usr/X11R6/lib/libXm.so.3.0.1 /usr/X11R6/lib/libXm.so.1
```

Linux 環境で別の Motif ライブラリーを使用する場合は、それに応じてサンプル・コマンドを変更します。

- 必須ライブラリーがすべて Linux にインストールされていない場合、コンテンツを HTML フォーマットに変換しようとするとうまく失敗することがあります。次のようなエラーが戻される場合があります。

```
class com.venetica.vbr.client.ConversionException COEV5040E:
An error occurred while converting
/IIIce/128ac0cd087e35fb180545acf6b25699/MyDoc.ppt
```

<IICE_HOME>/htmlconverter ディレクトリーへのパス。ここで、<IICE_HOME> はコンテンツ統合サーバーのインストール・ディレクトリーであり、次のコマンドを実行して、未解決の従属関係を検出します。

```
export LD_LIBRARY_PATH=$LD_LIBRARY_PATH:<IICE_HOME>/htmlconverter:/usr/X11R6/lib
ldd libsc_du.so
```

次に、必要なライブラリーをシステムにインストールして、すべての検出された従属関係を解決します。

- UNIX では一般的に、X Window を使用して UNIX プラットフォームに接続し、コンテンツ統合サーバー・サービスを開始して、コンテンツ統合サーバー・アプリケーションがデプロイされている Web アプリケーションを開始します。例えば、telnet の代わりに X Window を使用して、RDS サービスおよびアプリケーション・サーバーを開始します。

AIX 上の AFP イメージ

ビュー・サービスで AIX 上の AFP イメージをレンダリングしようとするとうまく表示されず、ProcessImageException エラーが戻されます。この問題は、WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 が自動デプロイされていた場合には発生しません。

AIX は、AFP イメージの処理に必要な java.awt ライブラリーを使用できません。

この問題を解決するには、ヘッドレス・オプションを使用可能にしてビュー・サービスの J2EE アプリケーション・サーバーを開始する、Java 仮想マシンを開始します。

WebSphere Application Server の場合、

1. WebSphere Application Server 管理コンソールを開始します。
2. 「サーバー」-> 「アプリケーション・サーバー」-> <iiceServer> -> 「プロセス定義」-> 「Java 仮想マシン」-> 「カスタム・プロパティー」をクリックします。ここで、<iiceServer> はビュー・サービスがデプロイされているサーバーです。
3. 値が NAME=java.awt.headless VALUE=true の新規プロパティーを追加します。
4. 「OK」をクリックしてマスター構成を保存します。
5. WebSphere Application Server を再始動します。

他のアプリケーション・サーバーの場合、アプリケーション・サーバーの始動スクリプトにヘッドレス・プロパティーを指定します。例えば、サーバーを開始するコマンドの場合、パスに -Djava.awt.headless=true を追加します。

WebLogic アプリケーション・サーバーの場合、ビュー・サービスが UNIX コンピューターで正しく動作しない

ビュー・サービスが、WebLogic アプリケーション・サーバーがインストールされた UNIX コンピューターで正しく動作するには、startWebLogic.sh ファイルを変更する必要があります。

1. `<WEBLOGIC_HOME>/user_projects/domains/<name of domain>/` ディレクトリーにナビゲートします。ここで、`<WEBLOGIC_HOME>` は WebLogic アプリケーション・サーバーのインストール・ディレクトリーであり、`<name of domain>` は WebLogic アプリケーション・サーバーがデプロイされているドメインの名前です。
2. テキスト・エディターで startWebLogic.sh をオープンします。
3. `<IICE_HOME>/htmlconverter` ディレクトリーをパス環境変数に追加します。ここで、`<IICE_HOME>` はコンテンツ統合サーバーのインストール・ディレクトリーであり、変更内容を startWebLogic.sh に保存します。例えば、以下のパス環境変数を使用します。

AIX LIBPATH=`<IICE_HOME>/htmlconverter`:\$LIBPATH

Solaris LD_LIBRARY_PATH=`<IICE_HOME>/htmlconverter`:\$LD_LIBRARY_PATH

Linux LD_LIBRARY_PATH=`<IICE_HOME>/htmlconverter`:\$LD_LIBRARY_PATH

ビューアー・アプレット

複数ページ文書の印刷

複数ページの文書をビューアー・アプレットから印刷すると、予期したように印刷されない場合があります。例えば、印刷範囲として「すべて」を選択した場合に、最後のページが印刷されない場合があります。

この問題を解決するには、直接 IP 印刷を使用するように印刷セットアップを変更するか、または Java 仮想マシン (JVM) のプラグイン・バージョン環境を更新します。

Mod:ca ファイルがカスタム・クライアント・アプリケーションで正しく表示されない

Mod:ca ファイルが、Mod:ca ファイルを表示するカスタム・クライアント・アプリケーションで正しく表示されません。オーバーレイは表示されますが、イメージは表示されません。この問題は、ビューアー・アプレットがコンテンツ統合サーバー Web クライアントで Mod:ca ファイルをレンダリングする場合には発生しません。

現状では、この問題の解決策はありません。

モノクロ・イメージの機能拡張

拡張機能は、1 ビットカラー深度のイメージ (モノクロ・イメージ) に対してのみサポートされます。他のすべてのイメージについては、拡張ボタンをクリックしてもイメージは改善されませんが、拡張ボタンは選択可能なものとして表示されたままです。

印刷イメージ・ファイルが切り捨てられるか不均衡になる

ビューアー・アプレットから JPEG、TIFF、および PNG イメージを印刷すると、出力が切り捨てられるか不均衡になります。この問題は、拡張アプレット印刷パラメーターが false に設定されている場合に発生します。

この問題を解決するには、拡張アプレット印刷パラメーターを true に設定します。拡張アプレット印刷パラメーターが true に設定されている場合、イメージに追加された注釈は印刷されないことに注意してください。

ドキュメンテーションの更新

新規文書

WebSphere Information Integrator Content Edition バージョン 8.3 用の標準文書の他に、以下について説明します。

WebSphere Information Integrator Content Edition のアップグレード

多くの新規機能拡張および新機能が存在するためにアップグレード・インストールができません。代わりに、前のバージョン上にインストールしないで、バージョン 8.3 を新規ロケーションにインストールし、そのインストール・システムを前のバージョンのディレクトリーにコピーするパラレル・インストールを実行します。

EJB コネクターのデプロイ

ここでは、アプリケーション・サーバーへの EJB コネクターのデプロイと、EJB コネクターと通信するためのコンテンツ統合サーバーの構成について説明します。

各コネクターを使用すると、コンテンツ統合サーバーを介して個別のコンテンツ・リポジトリー・システムにアクセスできます。コネクター・インスタンスのクラス・ローダーが、コネクター実装で必要とされる、コネクター実装クラス、アクセス・サービス・スタブ、およびサード・パーティーの JAR ファイルにアクセスできる必要があります。

EJB コネクターを分散環境にデプロイするには、以下の手順で行ないます。

1. 以下の説明は、コンテンツ統合サーバーがデプロイされる J2EE アプリケーション・サーバーに対する EJB デプロイメントの説明の補足です。まず、J2EE アプリケーション・サーバーのデプロイメント説明に従い、コンテンツ統合サーバー固有の名前および設定については、以下の説明を参照してください。
2. EJB コネクターを稼働するサーバーで、コンテンツ統合サーバー・インストール・アプリケーションを開始します。
3. 「コネクターのみ」インストール・オプションを選択します。
4. コンテンツ統合サーバーのインストール・ディレクトリーを選択します。
5. インストールするコネクターを選択します。
6. インストールするコネクターによって必要とされる追加構成ステップを完了します。
 - a. コネクター・アクセス用の Java ライブラリーを追加します。
 - b. コネクター・アクセス用のネイティブ・ライブラリーを追加します。
7. 暗号化されたログオン環境の場合は、Blowfish キー・ファイル BlowfishKey.ser を、サーバーのコンテンツ統合サーバーのインストール・ディレクトリーから、EJB コネクターを稼働するコンピューター上のコンテンツ統合サーバーのインストール・ディレクトリーにコピーします。

このファイルがないと、EJB コネクタはログイン・クリデンシャルを暗号化解除できません。

8. EJB コネクタをアプリケーション・サーバーにデプロイします。

EJB コネクタは <IICE_HOME>/ejb ディレクトリにあります。ここで、<IICE_HOME> はコンテンツ統合サーバー・コネクタのみのインストール・ディレクトリです。

9. <IICE_HOME>/lib/vbr.jar を、デプロイされたコネクタ EJB アプリケーションのクラス・パスに追加します。
10. vbr.home をアプリケーション・サーバーの JVM に定義します。変数 vbr.home をコンテンツ統合サーバー・コネクタのみのインストール・ディレクトリに設定します。
11. アプリケーション・サーバーを再始動します。
12. コンテンツ統合サーバーを再始動します。
13. コンテンツ統合サーバーの管理ツールを開始します。
14. 管理ツールを使用して、EJB コネクタを追加します。
15. JNDI 情報プロパティ・フィールドのボタンをクリックします。
16. 「アプリケーション・サーバー」フィールドの該当するアプリケーション・サーバーを選択します。
17. **java.naming.provider.url** フィールドの値を、EJB コネクタがデプロイされるアプリケーション・サーバーを参照するように変更します。WebSphere Application Server の場合、値を `iiop://ip_address:bootstrap_port` に変更します。ここで、`ip_address` はデプロイされた EJB コネクタがアプリケーション・サーバー上で稼働するコンピューターの IP アドレスです。WebLogic の場合は、値を `t3://ip_address:bootstrap_port` に変更します。
18. デプロイされた EJB 名が変更されている場合は、それに従って「**JNDI 名**」フィールドを変更します。
19. 「**検索**」をクリックして、コンテンツ統合サーバーがアプリケーション・サーバー上の Bean 名を検索できることを確認します。
20. 「**OK**」をクリックします。

Netscape Directory Server 用の LDAP シングル・サインオンの構成

Netscape Directory Server 用の LDAP シングル・サインオンを構成するには、以下の手順で行ないます。

1. Netscape Directory Server 6.2.1 をインストールします。
2. Netscape Directory Server が稼働していることを確認します。
3. Netscape Console を開始します。
4. Netscape Directory Server 資料の説明に従って、以下のスキーマ属性を作成します。

- vbrRepoUsername

属性名

vbrRepoUsername

属性 OID

1.3.6.1.4.1.19981.3

属性説明

リポジトリ・ユーザー名

構文

OctetString

属性名

vbrRepoPassword

属性 OID

1.3.6.1.4.1.19981.4

属性説明

リポジトリのパスワード

構文

OctetString

- vbrRepoOptionalToken

属性名

vbrRepoOptionalToken

属性 OID

1.3.6.1.4.1.19981.5

属性説明

リポジトリへのログインに使用するリポジトリ・オプション・トークン

構文

OctetString

- vbrSaltValue

属性名

vbrSaltValue

属性 OID

1.3.6.1.4.1.19981.7

属性説明

SaltValue

構文

OctetString

5. Netscape Directory Server 資料の説明に従って、以下のスキーマ・オブジェクト・クラスを作成します。

- vbrVenetica

名前

vbrVenetica

親 top

OID

1.3.6.1.4.1.19981.1

- 必須属性
 - cn
 - vbrRepositoryCredential
 - 名前
 - vbrRepositoryCredential
 - 親 vbrVenetica
 - OID
 - 1.3.6.1.4.1.19981.6
 - 必須属性
 - vbrRepoUsername, vbrRepoPassword
 - 許可属性
 - vbrRepoOptionalToken
 - vbrUserSalt
 - 名前
 - vbrUserSalt
 - 親 vbrVenetica
 - OID
 - 1.3.6.1.4.1.19981.8
 - 必須属性
 - vbrSaltValue

6. ディレクトリー・サーバーの説明に従って、各ユーザーに適切なセキュリティーを構成します。各ユーザーには、ユーザー・オブジェクト・レベルでのオブジェクト作成のアクセス権が必要です。
7. 標準のコンテンツ統合サーバー情報に従って、Web クライアントとシングル・サインオンを構成します。

コネクターの照会結果のソート・メソッド

結果をソートする列が照会に含まれている場合、コネクターは、コンテンツ統合サーバーのソート・メソッドまたはリポジトリーのネイティブ・ソート・メソッドを使用して結果をソートします。次の表に、各コネクターが照会結果をソートする方法を示します。

表 1. コネクターの照会結果のソート・メソッド

コネクター	ソート・メソッド
Documentum	ネイティブ
FileNet BPM	コンテンツ統合サーバー
FileNet CS	ネイティブ
FileNet IS	ネイティブ
FileNet イメージ・サービス・リソース・アダプター	コンテンツ統合サーバー
FileNet P8 Content Manager	ネイティブ
Hummingbird DM	ネイティブ
IBM DB2 Content Manager	ネイティブ

表 1. コネクタの照会結果のソート・メソッド (続き)

コネクタ	ソート・メソッド
IBM DB2 Content Manager OnDemand	ネイティブ
IBM Lotus Domino Document Manager	コンテンツ統合サーバー
IBM Lotus Notes	コンテンツ統合サーバー
IBM Lotus Notes 2.0	コンテンツ統合サーバー
IBM WebSphere MQ Workflow	コンテンツ統合サーバー
IBM WebSphere Portal Document Manager	ネイティブ
Microsoft NTFS	コンテンツ統合サーバー
OpenText Livelink	コンテンツ統合サーバー
リレーショナル・データベース管理システム	ネイティブ
Stellent	ネイティブ
Interwoven TeamSite	適用されません。(Interwoven Teamsite コネクタは照会をサポートしません。)
ファイル・システム	適用されません。(ファイル・システム・コネクタは照会をサポートしません。)

コネクタがネイティブ・ソートを使用する場合、コンテンツ統合サーバーの統合 API に用意されている `ResultSet.sort(int colnum)` メソッドを使用して、ネイティブ・ソートをオーバーライドできます。ただし、コネクタがコンテンツ統合サーバーのソートを使用する場合は、ソート・メソッドをネイティブ・ソートに変更することはできません。

IBM Portal Document Manager コネクタがレンディションを取得する方法

現在サポートされている他のコネクタとは異なり、PDM コネクタ・レンディションの取得は、レンディションのコンテンツ型に依存します。

表 2. IBM PDM コネクタ・レンディションの取得

コンテンツ型	取得できるレンディション型
DOC	doc、ort
OPE	ope、prz
ORT	doc、ort
OSS	oss、xls
PRZ	ope、prz
XLS	oss、xls

ビューアー・アプレットの機能拡張

カスタム GetNative コンテンツ・サブプレットの作成

カスタム GetNative コンテンツ・サブプレットを作成するには、次の手順で行いません。

1. コンテンツ統合サーバーの API 文書、
com.venetica.vbr.viewer.serlet.GetNativeContent ファイルを参照してください。この
ファイルのソースは、ライセンス交付されています。
2. サブレットの機能を拡張、強化、または制限するために、カスタム
GetNativeContent サブレットを作成します。現行の GetNativeContent.java フ
ァイルは <IICE_HOME>/docs/examples/java/webapp/viewerBean/example にありま
す。ここで、<IICE_HOME> はコンテンツ統合サーバーのインストール・ディレ
クトリーです。このファイルをガイドとして使用できます。
3. カスタム GetNativeContent サブレット・コード・ファイルを
<IICE_HOME>/docs/examples/java/webapp/viewerBean/example ディレクトリーに
追加します。
4. <IICE_HOME>/docs/examples/java/webapp/
viewerBean/customViewerBean/WEB-INF ディレクトリー内の web.xml ファイル
をカスタム・サブレット (CustomGetNativeServlet) で変更します。

servlet-name:CustomGetNativeContent
servlet-class:webapp.viewerBean.example.CustomGetNativeContent
servlet-name:CustomGetNativeContent
url-pattern:/CustomGetNativeContent
5. vbr_viewer_applet.jar ファイルをデジタル署名します。

このステップは、ロードするためのセキュリティ権限のアプレットへの付与、
ファイル・システムの操作、および印刷のために必要です。

6. 次のガイドラインを使用して、vbr_viewer.war ファイルを再パッケージします。
Ant などのビルド・ツールを使用すると、処理を自動化できます。
 - a. <IICE_HOME>%docs%examples%java%webapp%viewerBean%example ディレクトリ
ー内のすべての Java ファイルをコンパイルします。
 - b. 必要なカスタム・クラスまたはプロパティ・ファイルをすべて
vbr_viewer_applet.jar ファイルに組み込みます。
 - c. vbr_viewer_applet.jar ファイルを署名します。
 - d. custom_GNC_servlet.jar ファイルをビルドします。これらのクラスは、
<IICE_HOME>%docs%examples%java%webapp%viewerBean%example ディレクトリ
ーにあります。
 - e. 新規のビューアー・サブレット vbr_viewer.war ファイルをビルドします。
新規の vbr_viewer.war ファイルには、customViewerBean ディレクトリー、
vbr_viewer_applet.jar ファイル、および vbr.jar ファイル内のすべてを組み込
む必要があります。
7. 新規の vbr_viewer.war ファイルをアプリケーション・サーバーにデプロイしま
す。

カスタム GetNative コンテンツ・サブレットをテストするには、次の手順で行な
います。

1. http://<SERVER_NAME:PORT>/vbr_viewer/index.html のビューアー Web アプリケ
ーションにアクセスします。
2. baseServletURL アプレット・パラメーターを、アプリケーション・サーバーの正
しいホスト名とポート番号に更新します。

3. nativeContentServletURL アプレット・パラメーターを更新して、その値に新規の CustomGetNativeContent サブレットの名前を設定します。

Native Content Servlet URL: CustomGetNativeContent

4. 「**サブミット**」をクリックして、サブレットをロードします。

ビューアー・アプレットのカスタマイズ

ビューアー・アプレットをカスタマイズするには、以下の手順で行ないます。

1. 拡張 API クラスの ViewerImage、ViewerMessage、Viewer、および ViewerApplet については、Javadoc 資料を参照してください。
2. ビューアーの機能を拡張するためのカスタム・ビューアー・クラスを作成します。
3. カスタム・ビューアー・クラスを `<IICE_HOME>%docs%examples%java%webapp%viewerBean%example` ディレクトリーに追加します。ここで、`<IICE_HOME>` はコンテンツ統合サーバーのインストール・ディレクトリーです。
4. コード変更内容が格納された `vbr_viewer_applet.jar` ファイルをデジタル署名します。

このステップは、ロードするためのセキュリティ権限のアプレットへの付与、ファイル・システムの操作、および印刷のために必要です。

5. 次のガイドラインを使用して、`vbr_viewer.war` ファイルを再パッケージします。Ant などのビルド・ツールを使用すると、処理を自動化できます。
 - a. `<IICE_HOME>%docs%examples%java%webapp%viewerBean%example` ディレクトリー内のすべての Java ファイルをコンパイルします。
 - b. 必要なカスタム・クラスまたはプロパティー・ファイルをすべて `vbr_viewer_applet.jar` ファイルに組み込みます。
 - c. `vbr_viewer_applet.jar` ファイルを署名します。
 - d. `custom_GNC_servlet.jar` ファイルをビルドします。これらのクラスは、`<IICE_HOME>%docs%examples%java%webapp%viewerBean%example` ディレクトリーにあります。
 - e. 新規のビューアー・サブレット `vbr_viewer.war` ファイルをビルドします。新規の `vbr_viewer.war` ファイルには、`customViewerBean` ディレクトリー、`vbr_viewer_applet.jar` ファイル、および `vbr.jar` ファイル内のすべてを組み込む必要があります。
6. 新規の `vbr_viewer.war` ファイルをアプリケーション・サーバーにデプロイします。

Web クライアント・フォームのカスタム JSP タグの概要

Web クライアント・カスタム・フォームは、JavaBeans™ コンポーネント・アーキテクチャーに基づく Java コードと JSP テンプレートの組み合わせによって実装されます。

一般的に、Bean は、カスタム JSP タグを使用してテンプレートの内側からアクセスされます。テンプレートは、コンテンツ統合サーバーのために作成された、標準 JSTL タグ、サード・パーティーの JSP タグ、およびカスタム JSP タグを組み合わせで使用します。

Web クライアント・フォームのカスタム JSP タグの構成

カスタム JSP タグを使用するために、ユーザーの Web アプリケーションを、JSP タグ・ライブラリーと連動するように構成します。

カスタム JSP タグ・ライブラリーは、Java Server Pages Specification バージョン 1.2 以降をサポートするサーブレット・コンテナを必要とします。さらに、特定のタグは直接コンポーネントを処理し、Web コンポーネント・アプリケーションでのみ使用できます。

Web アプリケーションがカスタム JSP タグ・ライブラリーを使用できるように構成するには、次のようにします。

1. タグ・ライブラリー記述子ファイルを、ユーザーの Web アプリケーションの /WEB-INF サブディレクトリーにコピーします。
2. ワークスペース・コンポーネント JAR ファイル (vbr_wc.jar) を、`<IICE_HOME>/opt` ディレクトリー (`<IICE_HOME>` はコンテンツ統合サーバーのインストール・ディレクトリー) から Web アプリケーションの /WEB-INF/lib サブディレクトリーにコピーします。
3. エレメントを、/WEB-INF/web.xml 中のユーザーの Web アプリケーションデプロイメント記述子の中に追加します。

```
<taglib>
  <taglib-uri>/WEB-INF/wcf.tld</taglib-uri>
  <taglib-location>/WEB-INF/wcf.tld</taglib-location>
</taglib>
```

JSP ページでカスタム JSP タグ・ライブラリーからタグを使用するには、それぞれの JSP ページの一番上に次のディレクティブを追加します。

```
<%@ taglib uri="/WEB-INF/wcf.tld" prefix="wcf" %>
```

ここで、`wcf` は、カスタム JSP ライブラリーのタグを使用するための、タグ名接頭部です。この値は、使用するどのタグの接頭部にも変更できます。

Web クライアント・フォームのカスタム JSP タグの参照

以下のトピックでは、Web クライアント・フォームのコンテンツ統合サーバーのカスタム JSP タグについて説明します。

組み込み: 検索または表示フォームを現行ページに組み込みます。

タグ・クラス: `com.venetica.vbr.wc.wcf.tags.Include`

タグ本体: `jsp`

属性:

表 3. 組み込みの属性

名前	必須	説明
<code>compBeanVar</code>	<code>true</code>	コンポーネント Bean を含むページ・コンテキスト変数
<code>readOnly</code>	<code>false</code>	<code>true</code> に設定されていると、すべてのプロパティは強制的に読み取り専用状態になります。

表 3. 組み込みの属性 (続き)

名前	必須	説明
type	false	組み込まれるフォームの型 (デフォルト値は display)。検索に設定する場合、フォーム属性を設定する必要があります。
form	false	組み込まれる特定の検索フォームの名前
default	false	表示フォームが見つからないか、検索フォームが定義されていない場合に表示される、デフォルト・フォームの名前

サンプル:

```
<wcf:include compBeanVar="vbrCompBean" type="display"/>
```

フォーム: 現行フォームに指定されたパラメーターに基づいて、HTML フォーム・エレメントを出力します。

タグ・クラス: com.venetica.vbr.wc.wcf.tags.Form

タグ本体: jsp

属性:

表 4. フォームの属性

名前	必須	説明
compBeanVar	false	コンポーネント Bean を含むページ・コンテキスト変数
action	false	標準の HTML フォーム・アクション属性。通常、アクションは、使用するコンポーネント Bean に基づいてカスタム・フォームに指定されます。
method	false	標準の HTML フォーム・メソッド属性 (デフォルトは post メソッド)。
encType	false	標準の HTML encType 属性。
acceptCharset	false	標準の HTML acceptCharset 属性。
onSubmit	false	標準の HTML onSubmit 属性。
dataMapName	false	フォームに基づいたデータ・マップに使用されているデータ・マップ。データ・マップ・プロパティーを使用する場合は、必須。

サンプル:

```
<wcf:form>
  <TR>
    <!-- Property PropertyName(PropertyLabel) -->
    <TD class="MinorHeader"><wcf:label repoProperty="PropertyName" /></TD>
    <TD align="left">
      <wcf:value repoProperty="PropertyName" />
    </TD>
  </TR>
</wcf:form>
```

ラベル: 指定されたプロパティーのラベルを出力します。このタグは、API プロパティーをサポートしません。

タグ・クラス: com.venetica.vbr.wc.wcf.tags.Label

タグ本体: jsp

属性:

表 5. ラベルの属性

名前	必須	説明
repoProperty	false	リポジトリ・プロパティの名前。
dataMapProperty	false	データ・マップ・プロパティの名前。

サンプル:

```
<wcf:label repoProperty="PropertyName"/>
```

値: 指定されたプロパティの値を出力します。

タグ・クラス: com.venetica.vbr.wc.wcf.tags.Value

タグ本体: jsp

属性:

表 6. 値の属性

名前	必須	説明
repoProperty	false	リポジトリ・プロパティの名前。
apiProperty	false	API プロパティの名前。
dataMapProperty	false	データ・マップ・プロパティの名前。

サンプル:

```
<wcf:value dataMapProperty="DataMapElementName"/>
```

テキスト: 指定されたプロパティのテキスト型の HTML 入力エレメントを出力します。

タグ・クラス: com.venetica.vbr.wc.wcf.tags.Text

タグ本体: jsp

属性:

表 7. テキストの属性

名前	必須	説明
repoProperty	false	リポジトリ・プロパティの名前。
apiProperty	false	API プロパティの名前。
dataMapProperty	false	データ・マップ・プロパティの名前。
disabled	false	このコントロールを強制的に使用不可にします。 readOnly 属性と同じ動作です。
maxLength	false	標準の HTML 属性。
tabIndex	false	標準の HTML 属性。
size	false	標準の HTML 属性。
onBlur	false	標準の HTML 属性。

表 7. テキストの属性 (続き)

名前	必須	説明
onChange	false	標準の HTML 属性。
onClick	false	標準の HTML 属性。
onFocus	false	標準の HTML 属性。
onSelect	false	標準の HTML 属性。
readOnly	false	標準の HTML 属性。 disabled および readOnly の両属性は、readOnly 属性として表示されます。
operator	false	このタグが検索フォームで使用されると、演算子タグでは、この基準に使用される照会演算子をフォームで指定できます。検索時にこの属性が組み込まれていない場合、デフォルトの演算子は equals です。

サンプル:

```
<wcf:text repoProperty="PropertyName" maxLength="40"/>
```

textarea: 指定されたプロパティの textarea 型の HTML 入力エレメントを出力します。

タグ・クラス: com.venetica.vbr.wc.wcf.tags.Textarea

タグ本体: jsp

属性:

表 8. Textarea の属性

名前	必須	説明
repoProperty	false	リポジトリ・プロパティの名前。
apiProperty	false	API プロパティの名前。
dataMapProperty	false	データ・マップ・プロパティの名前。
wrap	false	標準の HTML 属性。
cols	false	標準の HTML 属性。
rows	false	標準の HTML 属性。
disabled	false	このコントロールを強制的に使用不可にします。readOnly 属性と同じ動作です。
tabIndex	false	標準の HTML 属性。
onBlur	false	標準の HTML 属性。
onChange	false	標準の HTML 属性。
onClick	false	標準の HTML 属性。
onFocus	false	標準の HTML 属性。
onSelect	false	標準の HTML 属性。
operator	false	このタグが検索フォームで使用されると、演算子タグでは、この基準に使用される照会演算子をフォームで指定できます。検索時にこの属性が組み込まれていない場合、デフォルトの演算子は equals です。

サンプル:

```
<wcf:textarea repoProperty="PropertyName"/>

<wcf:textarea repoProperty="PropertyName">
  Default Value
</wcf:textarea>
```

選択: 指定されたプロパティの HTML 選択エレメントを出力します。指定されたプロパティの既存の値が、オプションとして存在しない場合は、オプションのリストに追加されます。

タグ・クラス: com.venetica.vbr.wc.wcf.tags.Select

タグ本体: jsp

属性:

表 9. 選択の属性

名前	必須	説明
repoProperty	false	リポジトリ・プロパティの名前。
apiProperty	false	API プロパティの名前。
dataMapProperty	false	データ・マップ・プロパティの名前。
multiple	false	標準の HTML 属性。
disabled	false	このコントロールを強制的に使用不可にします。 readOnly 属性と同じ動作です。
tabIndex	false	標準の HTML 属性。
onBlur	false	標準の HTML 属性。
onChange	false	標準の HTML 属性。
onFocus	false	標準の HTML 属性。
operator	false	このタグが検索フォームで使用されると、演算子タグでは、この基準に使用される照会演算子をフォームで指定できます。検索時にこの属性が組み込まれていない場合、デフォルトの演算子は equals です。

サンプル:

```
<wcf:select repoProperty="PropertyName" />

<wcf:select repoProperty="PropertyName" >
  <wcf:option value="A" selected="true" >Choice A</wcf:option>
  <wcf:option value="B" >Choice B</wcf:option>
  <wcf:option value="C" >Choice C</wcf:option>
</wcf:select>
```

オプション: HTML オプション・エレメントを出力します。このタグで、選択タグの特定のオプションとデフォルト値を設定する方法を指定します。このタグは、wcf:select タグの一部として使用する必要があります。選択タグで指定されたプロパティに、指定されたいずれかのオプションの値と異なる値がある場合、その値がオプションのリストに追加されます。

タグ・クラス: com.venetica.vbr.wc.wcf.tags.Option

タグ本体: jsp

属性:

表 10. オプションの属性

名前	必須	説明
value	true	このオプションの値。
selected	false	このオプションが選択済みかどうか。親選択タグの複数属性が true に設定されていない場合、選択済みとしてマークされるのは 1 つのオプションのみです。

サンプル:

```
<wcf:select repoProperty="PropertyName" >
  <wcf:option value="A" selected="true" >Choice A</wcf:option>
  <wcf:option value="B" >Choice B</wcf:option>
  <wcf:option value="C" >Choice C</wcf:option>
</wcf:select>
```

日時: 日時値を更新する HTML を出力します。

タグ・クラス: com.venetica.vbr.wc.wcf.tags.Datetime

タグ本体: jsp

属性:

表 11. 日時の属性

名前	必須	説明
repoProperty	false	リポジトリ・プロパティの名前。
apiProperty	false	API プロパティの名前。
dataMapProperty	false	データ・マップ・プロパティの名前。
defaultValue	false	デフォルト値。
disabled	false	このコントロールを強制的に使用不可にします。readOnly 属性と同じ動作です。
includeExample	false	予期された形式で日付例を表示します。
mode	false	このタグでは、単純および標準の 2 つのモードをサポートします。標準がデフォルト値です。単純モードでは、クライアント・サイド検証を行わない基本テキスト入力フィールドを表示します。標準モードでは、クライアント・サイド検証を行なうテキスト入力フィールドと、ユーザーが日付を選択できる日付ピッカー・コントロールを表示します。
operator	false	このタグが検索フォームで使用されると、演算子タグでは、この基準に使用される照会演算子をフォームで指定できます。検索時にこの属性が組み込まれていない場合、デフォルトの演算子は equals です。

サンプル:

```
<wcf:datetime repoProperty="PropertyName" includeExample="true" />
```

時刻: 時刻値を更新する HTML を出力します。

タグ・クラス: com.venetica.vbr.wc.wcf.tags.Time

タグ本体: jsp

属性:

表 12. 時刻の属性

名前	必須	説明
repoProperty	false	リポジトリ・プロパティの名前。
apiProperty	false	API プロパティの名前。
dataMapProperty	false	データ・マップ・プロパティの名前。
defaultValue	false	デフォルト値。
disabled	false	このコントロールを強制的に使用不可にします。 readOnly 属性と同じ動作です。
includeExample	false	予期された形式で日付例を表示します。
mode	false	このタグでは、単純および標準の 2 つのモードをサポートします。標準がデフォルト値です。単純モードでは、クライアント・サイド検証を行わない基本テキスト入力フィールドを表示します。標準モードでは、クライアント・サイド検証を行なうテキスト入力フィールドと、ユーザーが日付を選択できる日付ピッカー・コントロールを表示します。
operator	false	このタグが検索フォームで使用されると、演算子タグでは、この基準に使用される照会演算子をフォームで指定できます。検索時にこの属性が組み込まれていない場合、デフォルトの演算子は equals です。

サンプル:

```
<wcf:time repoProperty="PropertyName" includeExample="true" />
```

日付: 日付値を更新する HTML を出力します。

タグ・クラス: com.venetica.vbr.wc.wcf.tags.Date

タグ本体: jsp

属性:

表 13. 日付の属性

名前	必須	説明
repoProperty	false	リポジトリ・プロパティの名前。
apiProperty	false	API プロパティの名前。
dataMapProperty	false	データ・マップ・プロパティの名前。
defaultValue	false	デフォルト値。
disabled	false	このコントロールを強制的に使用不可にします。 readOnly 属性と同じ動作です。

表 13. 日付の属性 (続き)

名前	必須	説明
includeExample	false	予期された形式で日付例を表示します。
mode	false	このタグでは、単純および標準の 2 つのモードをサポートします。標準がデフォルト値です。単純モードでは、クライアント・サイド検証を行わない基本テキスト入力フィールドを表示します。標準モードでは、クライアント・サイド検証を行なうテキスト入力フィールドと、ユーザーが日付を選択できる日付ピッカー・コントロールを表示します。
operator	false	このタグが検索フォームで使用されると、演算子タグでは、この基準に使用される照会演算子をフォームで指定できます。検索時にこの属性が組み込まれていない場合、デフォルトの演算子は equals です。

サンプル:

```
<wcf:date repoProperty="PropertyName" includeExample="true" />
```

チェック・ボックス: 指定されたプロパティの HTML チェック・ボックス・エレメントを出力します。

タグ・クラス: com.venetica.vbr.wc.wcf.tags.Checkbox

タグ本体: jsp

属性:

表 14. チェック・ボックスの属性

名前	必須	説明
repoProperty	false	リポジトリ・プロパティの名前。
apiProperty	false	API プロパティの名前。
dataMapProperty	false	データ・マップ・プロパティの名前。
options	false	提示されたチェック・ボックスに使用するオプションの分離されたリスト。ラベルが定義されている場合、このリストのサイズは、ラベル・リストのサイズと一致する必要があります。指定されたプロパティに、このリストに含まれていない複数の許可された値がある場合、その値は自動的に追加されます。指定されたプロパティの現行値がこのリストに含まれていない場合、その値は自動的に追加されます。
labels	false	提示されたチェック・ボックスに使用するラベルの分離されたリスト。これは、表示にのみ使用されます。選択したチェック・ボックスの戻り値は、オプション・リストの値が使用されます。
disabled	false	このコントロールを強制的に使用不可にします。readOnly 属性と同じ動作です。
tabIndex	false	標準の HTML 属性。
defaultValue	false	デフォルト値。

表 14. チェック・ボックスの属性 (続き)

名前	必須	説明
onBlur	false	標準の HTML 属性。
onChange	false	標準の HTML 属性。
onFocus	false	標準の HTML 属性。
onClick	false	標準の HTML 属性。
operator	false	このタグが検索フォームで使用されると、演算子タグでは、この基準に使用される照会演算子をフォームで指定できます。検索時にこの属性が組み込まれていない場合、デフォルトの演算子は equals です。

サンプル:

```
<wcf:checkbox repoProperty="PropertyName"/>
```

```
<wcf:checkbox repoProperty="PropertyName" options="A;B;C" defaultValue="A"/>
```

```
<wcf:checkbox repoProperty="PropertyName" options="A;B;C" defaultValue="A"
  labels="Choice A;Choice B;Choice C" />
```

ラジオ: 指定されたプロパティの HTML ラジオ・ボタン・エレメントを出力します。

タグ・クラス: com.venetica.vbr.wc.wcf.tags.Radio

タグ本体: jsp

属性:

表 15. ラジオの属性

名前	必須	説明
repoProperty	false	リポジトリ・プロパティの名前。
apiProperty	false	API プロパティの名前。
dataMapProperty	false	データ・マップ・プロパティの名前。
options	false	提示されたラジオ・ボタンに使用するオプションの分離されたリスト。ラベルが定義されている場合、このリストのサイズは、ラベル・リストのサイズと一致する必要があります。指定されたプロパティに、このリストに含まれていない複数の許可された値がある場合、その値は自動的に追加されます。指定されたプロパティの現行値がこのリストに含まれていない場合、その値は自動的に追加されます。
labels	false	提示されたラジオ・ボタンに使用するラベルの分離されたリスト。これは、表示にのみ使用されます。選択したラジオ・ボタンの戻り値は、オプション・リストの値が使用されます。
disabled	false	このコントロールを強制的に使用不可にします。readOnly 属性と同じ動作です。
tabIndex	false	標準の HTML 属性。
defaultValue	false	デフォルト値。

表 15. ラジオの属性 (続き)

名前	必須	説明
onBlur	false	標準の HTML 属性。
onChange	false	標準の HTML 属性。
onFocus	false	標準の HTML 属性。
onClick	false	標準の HTML 属性。
operator	false	このタグが検索フォームで使用されると、演算子タグでは、この基準に使用される照会演算子をフォームで指定できます。検索時にこの属性が組み込まれていない場合、デフォルトの演算子は equals です。

サンプル:

```
<wcf:radio repoProperty="PropertyName"/>
<wcf:radio repoProperty="PropertyName" options="A;B;C" defaultValue="A"/>
<wcf:radio repoProperty="PropertyName" options="A;B;C" defaultValue="A"
  labels="Choice A;Choice B;Choice C" />
```

条件: 非表示パラメーターを出力します。フォーム作成者が、検索フォームに固定基準を指定できます。

タグ・クラス: com.venetica.vbr.wc.wcf.tags.Where

タグ本体: jsp

属性:

表 16. 条件の属性

名前	必須	説明
repoProperty	false	リポジトリ・プロパティの名前。
dataMapProperty	false	データ・マップ・プロパティの名前。
propValue	false	プロパティの値。
operator	false	このタグが検索フォームで使用されると、演算子タグでは、この基準に使用される照会演算子をフォームで指定できます。検索時にこの属性が組み込まれていない場合、デフォルトの演算子は equals です。

サンプル:

```
<wcf:where repoProperty="PropertyName" propValue="SomeValue" operator="="/>
```

文書の修正

以下に、WebSphere Information Integrator Content Edition バージョン 8.3 の文書に対する修正内容を説明します。

ここでのインフォメーション・センターに対するすべてのナビゲーション参照では、開始点としてインフォメーション・センターのナビゲーション・ツリーを使用していることを前提としています。

全体的な修正

Javadoc 文書ロケーション

Javadoc 文書ロケーションは、文書から省略しました。

コンテンツ統合サーバーのアプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) およびサービス・プロバイダー・インターフェース (SPI) 文書は、Javadoc 形式で入手できます。

API および SPI 文書にアクセスするには、以下のファイルを Web ブラウザーでオープンします。<IICE_HOME> は、コンテンツ統合サーバーのインストール・ディレクトリです。

API または SPI	ファイル
統合 API	<IICE_HOME>%docs%integrate%api%index.html
統合 SPI	<IICE_HOME>%docs%integrate%spi%index.html
サブスクリプション・イベント・サービス API	<IICE_HOME>%docs%ssdocs%api%index.html
サブスクリプション・イベント・サービス SPI	<IICE_HOME>%docs%ssdocs%spi%index.html
Web コンポーネント API	<IICE_HOME>%docs%wc%api%index.html
仮想リポジトリ API	<IICE_HOME>%docs%relate%api%index.html

WebSphere Application Server のサポートされるバージョン

文書全体で、5.1.1 が WebSphere Application Server のサポート・バージョンとしてリストされています。実際のサポート・バージョンは 5.1.1.3 です。

インストール

トピック・タイトル: リポジトリの対応コネクタおよび必要なバージョン

インフォメーション・センター内のロケーション:

「インストール」->「必要なソフトウェアとサポートされるオペレーティング・システム」->「リポジトリの対応コネクタおよび必要なバージョン」

修正 IBM Content Manager コネクタのリストされているサポート・バージョンを以下の情報で置換します。

IBM DB2 Content Manager 8.2 を使用している場合は、IBM DB2 Information Integrator for Content (以前は Enterprise Information Portal) バージョン 8.2 以降。(IBM DB2 Content Manager 8.3 の場合は不要。) IBM DB2 Content Manager バージョン 8.2 または 8.3。

修正 IBM Lotus Notes コネクタのリストされているサポート・バージョンを以下の情報で置換します。

Lotus Notes client 5.x。 Lotus Domino Server 5.0.5

修正 IBM Lotus Notes 6 コネクターのリストされているサポート・バージョンを以下の情報で置換します。

Lotus Domino Server 6.x

修正 IBM WebSphere Portal Document Manager コネクターのリストされているサポート・バージョンを以下の情報で置換します。

WebSphere Application Server 5.1.1.3 および WebSphere Portal Server バージョン 5.1.0.1

WebSphere Application Server 6.0.0.2 および WebSphere Portal Server バージョン 5.1.0.1

修正 FileNet イメージ・サービス・リソース・アダプター・コネクターのリストされているサポート・バージョンを以下の情報で置換します。

FileNet Images Services Resource Adapter バージョン 3.2

修正 OpenText Livelink コネクターのリストされているサポート・バージョンを以下の情報で置換します。

OpenText Livelink API バージョン 9.2 または 9.5

トピック・タイトル:シングル・サーバーでの WebSphere Information Integrator Content Edition のインストール

インフォメーション・センター内のロケーション:

「インストール」->「シングル・サーバーでの WebSphere Information Integrator Content Edition のインストール」

修正 手順を以下の手順で置換します。

コンテンツ統合サーバーをシングル・サーバーにインストールするには以下のようにします。

1. コマンド行から WebSphere Information Integrator Content Edition のインストール・ウィザードを開始します。

AIX

root ユーザーとしてログインし、 ./setupaix を入力します。

Linux

root ユーザーとしてログインし、 ./setupLinux.bin を入力します。

Solaris オペレーティング環境 (SPARC)

root ユーザーとしてログインし、 ./setupSolaris.bin を入力します。

Solaris オペレーティング環境 (Intel® x86)

root ユーザーとしてログインし、 ./setupSolarisx86.bin を入力します。

UNIX (コンテンツ統合サーバーでサポートされていない UNIX オペレーティング・システムの場合)

root ユーザーとしてログインし、./setupUnix.sh を入力します。

Windows

管理者としてログインし、setupwin32.exe を入力します。

また、以下のコマンドのいずれかを入力してインストール・ウィザードを開始する方法もあります。

標準モード

```
java -cp setup.jar run
```

無音モード

```
java -cp setup.jar run -silent -options response_file
```

コンソール・モード

```
java -cp setup.jar run -console
```

応答ファイル・テンプレート

```
java -cp setup.jar run -options-template response_file
```

応答ファイルに対する記録オプション

```
java -cp setup.jar run -options-record response_file
```

2. インストール・ウィザードの言語を選択します。
3. コンテンツ統合サーバーのインストール・タイプとして、「フル」を選択します。
4. 残りのプロンプトに応答します。
5. インストール・サマリーのウィンドウで、お客様の構成を見直してから、「次へ」をクリックします。
6. 「完了」をクリックします。
7. Windows にコンテンツ統合サーバーをインストールした場合は、コンピューターを再始動する必要があります。
8. コンテンツ統合サーバーを WebSphere Application Server にはデプロイしないという場合は、コンテンツ統合サーバーをご使用のアプリケーション・サーバーに手動でデプロイしてください。
9. データ・ストア・サービスを開始します。
10. コンテンツ統合サーバーを開始します。
11. 管理ツールを開始します。管理ツールの「オプション」ウィンドウが表示されます。
12. デフォルトの設定を確認します。
 - インストーラー・プログラムによってコンテンツ統合サーバーが WebSphere Application Server にデプロイされるように選択した場合は、「OK」をクリックして、デフォルト設定を受け入れます。

- コンテンツ統合サーバーを他のアプリケーション・サーバーに手動でデプロイしているときは、デフォルト設定を変更する必要がある場合があります。
13. コネクタの構成を作成します。
 14. コネクタの文書で説明されている、コネクタ固有の追加のインストール手順を実行します。
 15. コネクタの構成をテストします。管理ツールから、構成したコネクタを右クリックし、ドロップダウン・メニューから「テスト接続」をクリックします。

トピック・タイトル: WebSphere Information Integrator Content Edition スクリプト (bin ディレクトリー)

インフォメーション・センター内のロケーション:

「インストール」->「コンテンツ統合サーバーの配布内容」->
「WebSphere Information Integrator Content Edition スクリプト (bin ディレクトリー)

修正

upgradeConfig.bat (upgradeConfig.sh) ファイルは、配布内容の一部ではありません。

デプロイ

トピック・タイトル: WebSphere Application Server バージョン 5.1.1 上でのコンテンツ統合サーバーのデプロイ

インフォメーション・センター内のロケーション:

「デプロイ」->「アプリケーション・サーバー上でのコンテンツ統合サーバーのデプロイ」->「WebSphere Application Server 上でのコンテンツ統合サーバーのデプロイ」->「WebSphere Application Server バージョン 5.1」->「WebSphere Application Server バージョン 5.1.1 上でのコンテンツ統合サーバーのデプロイ」

修正 ステップ 4c を以下のステップで置換します。

各トランスポートに使用するホスト名を入力します。

```
New Alias 1
Host Name: *
Port: 9081
```

```
New Alias 2
Host Name: *
Port: 9091
```

```
New Alias 3
Host Name: *
Port: 9044
```

```
New Alias 4
Host Name: *
Port: 9444
```

トピック・タイトル: WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 へのコンテンツ統合サーバーのデプロイ

インフォメーション・センター内のロケーション:

「デプロイ」->「アプリケーション・サーバー上でのコンテンツ統合サーバーのデプロイ」->「 WebSphere Application Server 上でのコンテンツ統合サーバーのデプロイ」->「WebSphere Application Server バージョン 6.0」->「WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 へのコンテンツ統合サーバーのデプロイ」

修正 ステップ 14f の viii と 14f の ix の間に、次のステップを追加します。

IBM WebSphere Portal Document Manager コネクタがインストールされている場合は、すべての無保護 2.x メソッドに正しいレベルの保護が設定されていることを確認してください。「次へ」をクリックします。

修正 ステップ 16 の後に、次のステップを追加します。

WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 の WebSphere Information Integrator Content Edition アプリケーションを構成する手順を完了します。

トピック・タイトル: インフォメーション・センターの開始

インフォメーション・センター内のロケーション:

「デプロイ」->「製品情報およびヘルプのアクセス」->「インフォメーション・センターの開始」

修正 次のステップを、Windowsの手順、および UNIX、AIX、および Linux の手順の後に追加します。

Web ブラウザーをオープンして、URL <http://localhost:8888/help> を入力します。

トピック・タイトル: コンテンツ統合サーバーを直接モードで実行できるように構成する

インフォメーション・センター内のロケーション:

「展開」->「その他の展開オプション」->「コンテンツ統合サーバーを直接モードで実行できるように構成する」

修正

コンテンツ統合サーバーを直接モードで使用する場合は、SOAP プロキシ・コネクタも使用不可です。

リポジトリへのアクセスの構成

トピック・タイトル: Documentum コネクタの構成

インフォメーション・センター内のロケーション:

「リポジトリへのアクセスの構成」->「Documentum コネクタの概要」->「Documentum コネクタの構成」

修正 「始める前に」セクションに次のステートメントを追加します。

UNIX の場合、Documentation Foundation Classes (DFC) をインストールするときに、サーバーにコンテンツ統合サーバーをインストールしたのと同じユーザーを使用します。

トピック・タイトル: Documentum コネクターのプロパティ

インフォメーション・センター内のロケーション:

「リポジトリへのアクセスの構成」->「Documentum コネクターの概要」->「Documentum コネクターのプロパティ」

修正 「外部添付プロパティ名」パラメーターと説明を除去します。

トピック・タイトル: IBM WebSphere Portal Document Manager コネクターの構成

インフォメーション・センター内のロケーション:

「リポジトリへのアクセスの構成」->「IBM WebSphere Portal Document Manager コネクター」->「IBM WebSphere Portal Document Manager コネクターの構成」

修正 次の前提条件を追加します。

IBM WebSphere Portal Document Manager コネクターを構成し、使用するには、まず WebSphere Portal Server APAR PK10952 をインストールします。

トピック・タイトル: IBM WebSphere Portal Document Manager コネクターのプロパティ

インフォメーション・センター内のロケーション:

「リポジトリへのアクセスの構成」->「IBM WebSphere Portal Document Manager コネクター」->「IBM WebSphere Portal Document Manager コネクターのプロパティ」

修正 次のプロパティ記述を追加します。

NodesToCache

取得する文書数を指定する整数。この数の文書を取得後、IBM WebSphere Portal Document Manager コネクターは自動的にログオフして、リポジトリにログオンします。このパラメーターによって、リポジトリが稼働する Portal Server のメモリ不足を防止できます。デフォルト値は 2000 です。

修正 プロダクティビティ・コンポーネント文書の変換のプロパティ記述を置換します。

プロダクティビティ・コンポーネント文書の変換

ポータル・プロダクティビティ・コンポーネント文書を変換するかどうかを示す、Boolean 値。有効な値は、true および false です。

プロダクティビティ・コンポーネント文書は、ネイティブ・コンテンツの型に応じて、デフォルトの標準形式に変換されます。RTF (リッチ・テキスト・フォーマット) 文書は、デフォルトで Microsoft Word 形式に変換されます。スプレッドシート文書は、デフォルトで Microsoft Excel 形式に変換されます。プレゼンテーション文書は、デフォルトで Lotus Freelance Graphics[®] 形式に変換されます。設定された値に関係なく、変換および変換されない形式の両方が、WebSphere Information Integrator Content Edition API サポートを使用して、レンディシ

ョンできます。また、convert.mimetypes PDM コネクターのカスタム構成プロパティを使用して、変換元および変換先の値をカスタマイズすることもできます。

トピック・タイトル: OpenText Livelink コネクタ

インフォメーション・センター内のロケーション:

「リポジトリへのアクセスの構成」->「OpenText Livelink コネクタ」

修正 次の要件を追加します。

OpenText Livelink コネクタに必要な、OpenText Livelink API jar、lapi.jar は、OpenText Livelink SDK インストールで配布された lapi.jar でなければなりません。

コンテンツ統合サーバーの構成と管理

トピック・タイトル: 管理ツールの概要

インフォメーション・センター内のロケーション:

「コンテンツ統合サーバーの構成と管理」->「管理ツール」->「管理ツールの概要」

修正 次の情報を追加します。

管理ツールは、次のモードで稼働します。

ファイル・オープン・モード

管理ツールは J2EE アプリケーション・サーバーで稼働し、構成情報をファイル・システムからローカルに取得します。

接続モード

管理ツールは J2EE アプリケーション・サーバーで稼働し、構成情報を WebSphere Information Integrator Content Edition 構成サーバーから取得します。

直接モード

管理ツールは J2EE アプリケーション・サーバーなしで稼働し、構成情報をファイル・システムからローカルに取得します。

トピック・タイトル: サービス・モニター Web アプリケーションのアクセス

インフォメーション・センター内のロケーション:

「コンテンツ統合サーバーの構成と管理」->「システム・サービスの構成とモニター」->「システム・サービスの構成」->「サービス・モニター Web アプリケーションのアクセス」

修正 手順を以下の手順で置換します。

サービス・モニターにアクセスするには、次のようにします。

1. Web ブラウザーに次の URL を入力します。http://server name:port number/services
2. 必要に応じて、HTTP ログオン情報を入力します。

3. WebSphere Application Server 以外のアプリケーション・サーバーの場合、ユーザー ID とパスワードを入力します。デフォルトでは、ユーザー ID は Administrator で、パスワードは Administrator です。

システム・サービス・モニターが Web ブラウザーに表示されます。

トピック・タイトル: ビューアー・アプレットを独立した Web アプリケーションとして WebSphere Application Server に展開

インフォメーション・センター内のロケーション:

「コンテンツ統合サーバーの構成と管理」->「クライアントおよびビューアーの構成」->「文書ビューアー・アプレットの構成」->「ビューアー・アプレットの展開」->「ビューアー・アプレットを独立した Web アプリケーションとして WebSphere Application Server に展開」

修正 ステップ 19 のテキストは誤りです。次のテキストで置換します。

「新規」をクリックして、「名前」フィールドに ISRALibrary と入力し、vbr_view_services.jar と vbr_access_services.jar ファイルの絶対パスを「クラス・パス」フィールドに入力します。

vbr_view_services.jar ファイルは <IICE_HOME>%lib ディレクトリーにあります。ここで、<IICE_HOME> はコンテンツ統合サーバーのインストール・ディレクトリーです。vbr_access_services.jar ファイルは、次のロケーションにあります。

WebSphere 5.1.X バージョン

```
<WebSphere51_Home> %installedApps[%  
deployed_server_name]%VeniceBridge.ea%
```

WebSphere 6.0.X バージョン

```
<WebSphere60_Home>%profiles%IICEServer%  
installedApps%IICEServer%  
VeniceBridge.ea%
```

修正 ステップ 4 を以下のステップで置換します。

ブラウズ・ボタンをクリックして、

<IICE_HOME>%docs%examples%java%webapp%viewerBean から vbr_viewer.war を選択します。ここで、<IICE_HOME> はコンテンツ統合サーバーのインストール・ディレクトリーです。

トピック・タイトル: ビューアー・アプレットを独立した Web アプリケーションとして Weblogic に展開

インフォメーション・センター内のロケーション:

「コンテンツ統合サーバーの構成と管理」->「クライアントおよびビューアーの構成」->「文書ビューアー・アプレットの構成」->「ビューアー・アプレットの展開」->「ビューアー・アプレットを独立した Web アプリケーションとして Weblogic に展開」

修正 ステップ 3 の後に、次のステップを追加します。

「新規 Web アプリケーション・モジュールのデプロイ」をクリックします。

修正 ステップ 5 を以下のステップで置換します。

「ターゲット・モジュール」をクリックして、「デプロイ」をクリックします。

「Deployment Status (展開状況)」フィールドの値が「Available (使用可能)」で、「Status of Last Action (最終アクションの状況)」フィールドの値が「Success (成功)」の場合、ビューアー・アプレットの展開は完了しています。

修正 最終パラグラフを以下のパラグラフで置換します。

ビューアー・アプレットが正しく展開されていることを確認するには、Web ブラウザーをオープンして、
`http://IICE_SERVER_HOST:7001/vbr_viewer/index.html` にナビゲートして、テキスト・フィールドに以下の情報を入力して、「サブミット」をクリックします。

- 基本サーブレット URL: `http://IICE_SERVER_HOST:7001/vbr_viewer/`
- リポジトリ名
- ユーザー名
- パスワード
- コンテンツ ID

アプリケーションの開発

トピック・タイトル: ポートレット・ファイルのビルド

インフォメーション・センター内のロケーション:

「アプリケーションの開発」->「Web コンポーネントを使ったクライアントとポートレットの開発」->「Web コンポーネントのポートレット・アーキテクチャー」->「ポートレットのデプロイ」->「WebSphere ポータルのポートレットのビルド、デプロイ、および実行」->「ポートレット・ファイルのビルド」

修正 手順のステップ 6 を以下のステップで置換します。

Windows コマンド・ウィンドウをオープンします。vbr_portlet.war ファイルを解凍した vbr_portlet ディレクトリー内をナビゲートします。次のコマンドを入力します。

```
jar cvf ..\vbr_portlet.war ...
```

修正 ステップ 4d を以下の 2 ステップで置換します。

d. ポートレットが、ポータル・アプリケーションに指定されたシングル・サインオン・クリデンシャルを使用してはならない場合は、portlet.xml 内の vbrUseSsoAuthentication プロパティ値を FALSE に変更します。ポートレットでシングル・サインオン・クリデンシャルが使用されるのであれば、vbrUseSsoAuthentication プロパティ値を TRUE に変更します。これがデフォルト値です。

e. 変更内容を保存し、BlowfishWorkspaceKey.ser ファイルが、コンテンツ統合サーバー Web クライアントでデプロイされたのと同じファイルであることを確認します。一般的に、コンテンツ統合サーバーを WebLogic にデプロイした場合、BlowfishWorkspaceKey.ser ファイルを <IICE_HOME>/opt/ ディレクトリー (<IICE_HOME> はコンテンツ統合サーバーのインストール・ディレクトリー) から WEB-INF ディレクトリーにコピーします。

トピック・タイトル: 新規ポータル作成とポートレットの追加

インフォメーション・センター内のロケーション:

「アプリケーションの開発」->「Web コンポーネントを使ったクライアントとポートレットの開発」->「Web コンポーネントのポートレット・アーキテクチャー」->「ポートレットのデプロイ」->「WebLogic ポータルへのポートレットのデプロイ」->「新規ポータル作成とポートレットの追加」

修正 ステップ 4a を以下のステップで置換します。

WEB-INF/web.xml ファイルの内容をポータル・アプリケーションの web.xml ファイルに挿入します。コンテンツ統合 Web クライアント・サーバーを参照するように vbrBaseWebComponentsUrl プロパティを変更して、結合されたファイル内の 2 つの <display-name> タグの 1 つを除去します。

修正 ステップ 4d を以下の 2 ステップで置換します。

d. ポートレットが、ポータル・アプリケーションに指定されたシングル・サインオン・クリデンシャルを使用してはならない場合は、portlet.xml 内の vbrUseSsoAuthentication プロパティ値を FALSE に変更します。ポートレットでシングル・サインオン・クリデンシャルが使用されるのであれば、vbrUseSsoAuthentication プロパティ値を TRUE に変更します。これがデフォルト値です。

e. 変更内容を保存し、BlowfishWorkspaceKey.ser ファイルが、コンテンツ統合サーバー Web クライアントでデプロイされたのと同じファイルであることを確認します。一般的に、コンテンツ統合サーバーを WebLogic にデプロイした場合、BlowfishWorkspaceKey.ser ファイルを <IICE_HOME>/opt/ ディレクトリー (<IICE_HOME> はコンテンツ統合サーバーのインストール・ディレクトリー) から WEB-INF/ ディレクトリーにコピーします。

トピック・タイトル: コンテンツ統合サーバーの URL フォーマット

インフォメーション・センター内のロケーション:

「アプリケーションの開発」->「統合 API を使ったコンテンツへのアクセス」->「URL アドレッシング機能の概要」->「コンテンツ統合サーバーの URL フォーマット」

修正 3 番目のパラグラフを以下のパラグラフで置換します。

URN を構成するには、次のパターンを使用します。

```
vbr:/<Repository ID>/<Content ID>/<Version>/<Item Type>
```

リポジトリ ID

リポジトリ・システム ID (人が読むことができ、意味のある名前) または、リポジトリ永続 ID (変わらないコード)。

項目タイプ

IItemType インターフェースからの項目のタイプは、次のいずれかです。

- CONTENT
- FOLDER
- WORK_ITEM
- WORK_QUEUE

WebSphere Information Integrator を使ったデータとコンテンツの統合

トピック・タイトル: コンテンツ統合サーバーのラッパーの WebSphere Application Server へのインストール

インフォメーション・センター内のロケーション:

「WebSphere Information Integrator を使ったデータとコンテンツの統合」->「コンテンツ統合ラッパーのインストール」->「コンテンツ統合サーバーのラッパーの WebSphere Application Server へのインストール」

修正 最後の行を以下の行で置換します。

```
call sqlj.remove_jar('vbr')
```

トピック・タイトル: コンテンツ統合サーバーのラッパーの BEA WebLogic へのインストール

インフォメーション・センター内のロケーション:

「WebSphere Information Integrator を使ったデータとコンテンツの統合」->「コンテンツ統合ラッパーのインストール」->「コンテンツ統合サーバーのラッパーの BEA WebLogic へのインストール」

修正 最後の行を以下の行で置換します。

```
call sqlj.remove_jar('weblogic')
```

トピック・タイトル: コンテンツ検索カスタム関数

インフォメーション・センター内のロケーション:

「WebSphere Information Integrator を使ったデータとコンテンツの統合」->「フェデレーテッド照会処理」->「コンテンツ検索カスタム関数」

修正 getContent 関数の 3 番目の例を除去します。getContent 関数の 2 番目の例と getContentLookup 関数の単一の例では、疑問符 (?) シンボルの後に URN を使用する必要があります。

- getContent 関数の 2 番目の例

```
SELECT VBR_NAME, vbr.getContent('http://localhost:9081/
VeniceBridge/NATIVECONTENT/?URN=' || VBR_URN, 'Y',
'mschenk', 'password', C:%temp%icdudf.log', 'DEBUG',
'rmi://localhost:1250/SSOserver')
FROM nickname1 where ...
```

- getContentLookup 関数の例

```
SELECT VBR_NAME, vbr.getContentLookup
'http://localhost:9081/VeniceBridge/NATIVECONTENT/
?URN=' || VBR_URN, 'Y', 'myServer') FROM
mySchema.nickname1 where ...
```

トピック・タイトル: WebSphere Application Server Version 5.x でのコンテンツ統合ラッパーのマイグレーション

インフォメーション・センター内のロケーション:

「WebSphere Information Integrator を使ったデータとコンテンツの統合」-> 「DB2 WebSphere Information Integrator Content Edition バージョン 8.2 から WebSphere Information Integrator Content Edition バージョン 8.3 へのコンテンツ統合ラッパーのマイグレーション」-> 「WebSphere Application Server バージョン 5.x 上のコンテンツ統合ラッパーのマイグレーション」

修正 ステップ 2 の、call sqlj.remove_jar('vbr_view_services', 'vbr_view_services'); を call sqlj.remove_jar('vbr_view_services'); で置換します。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
J46A/G4
555 Bailey Avenue
San Jose, CA 95141-1003
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。お客様は、IBM のアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生した創作物には、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. _年を入れる_. All rights reserved.

商標

IBM 商標の詳細については、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> を参照してください。

以下は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Intel、Intel Inside (ロゴ)、および Pentium は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

IBM と連絡を取る

技術上の問題がある場合は、お客様サポートにご連絡ください。

製品情報

ebSphere Information Integrator に関する情報は、電話、または Web により入手できます。

1. 見積もり依頼・購入相談 (IBM ソフトウェア ダイレクト) :
 - お電話による問い合わせ : 0120-450-260
 - Web による問い合わせ :
<https://www-6.ibm.com/jp/domino03/software/ecatalog.nsf/qu1?OpenForm>
2. 製品情報 : http://www.ibm.com/software/data/integration/db2ii/editions_content.html
3. Web の <http://www-306.ibm.com/software/data/integration/db2ii/supportcontent.html> (英語のみ) にアクセスしてください。

このサイトには、次の最新情報が入っています。

- 技術ライブラリー
- 資料の注文方法
- 製品のダウンロード
- ニュースグループ
- フィックスパック
- ニュース
- Web リソースへのリンク

資料についてのコメント

お客様のフィードバックは IBM が良質な情報を提供する助けになります。この資料や他の DB2 Information Integrator の資料についてのコメントをお送りください。コメントの送付には、以下のいずれかの方法を利用することができます。

- www.ibm.com/software/data/rcf で、オンラインの読者コメント・フォームを使用して送信する。
- E メールで comments@us.ibm.com にコメントを送信する。お送りいただく情報には、製品の名前、製品のバージョン番号、および資料の名前と部品番号 (該当する場合) を含めてください。特定の本文についてコメントする場合は、本文の位置 (たとえば、タイトル、表の番号、またはページ番号) を含めてください。



Printed in Japan